



一 免許ヲ得スシテ諸職業用火藥及免許銃用火藥ヲ賣買貯藏運搬スル者  
 一 全上ノ火藥ヲ窃ニ外國人へ賣渡シタル者  
 一 火藥買入ノ許可證ヲ再用シタル者  
 一 本規則中別ニ罰則ナキ諸條ヲ犯シタル者

明治何年自一月管内火藥類總計表

品	種	製造場數	製造數量	外國人賣買數量	輸入	輸出	販賣數量	現貯藏數量	免許商人	裝				雷		管	
										獵銃用	坑業用	烟火等職業用	坑業自用	合計	獵銃用	合計	獵銃用

開拓使  
東京府  
本署  
縣

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ茲ニ第二讀會ヲ閉ツ

○外番一番山崎直胤 建議スル所アラントス本案ハ第二讀會ニ於テモ格別

異論ナク且一般危險ヲ除クノ法案ナレハ一日モ早ク施行スルヲ要

用トス仍テ直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望ス

○二十番佐野常民 内閣委員建議ノ決ヲ取ラル、ニ先チ本官モ亦建議ヲ

爲サントス即チ本按第二章第三條火藥製造場ノコナリ抑々火藥製

造場ノ爆發ナキヲ保シ難キハ人皆能ク知ル所トス本官曾テ聞ク火

藥製造所ノ構造タルヤ周圍ヲ堅牢ニシ屋上ヲ輕軟ニセハ過ツテ爆

發スルモ火氣蒸騰屋上ヲ突キ四隣害ヲ受クルコト鮮シト亦至言ト云

フヘシ然ルニ今若シ本條ノ如ク公布スルハ其築造者或ハ此理ニ  
暗ク周圍屋上皆悉ク堅牢ニスルモ亦知ルヘカラス故ニ人民ヲシテ  
能ク此理ヲ詳知セシメンコトヲ要ス是本官修正ヲ要ムル所以ナリ依  
テ精密調査ヲ加ヘ第三讀會ヲ待テ修正說ヲ呈出セントス依テ内閣  
委員ノ請求ニハ不同意ナリ

○十四番中島信行 二十番ト同意ナリ本按ハ人民ノ安危ニ係ル至重ノ法

案ニシテ特ニ火藥製造所築造ノ如キハ最も緊要ノ條款ナリ然ラハ

假令急施ヲ要スルモ審議熟考他日ノ洪益ヲ期スルヲ要スヘシ故ニ

兩三日ヲ待ツテ第三讀會ヲ開クモ決シテ晚キニアラス故ニ内閣委

員ノ建議ニ左袒スル能ハス例規ニヨリ之ヲ開クヲ可トス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意ノ者ハ起立スヘシ





八番	大給 恒
十一番	山口 尙芳
十二番	河野 敏鎌
十四番	中島 信行
十五番	津田 眞道
十六番	山田 顯義
十九番	河田 景與
二十番	佐野 常民
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎
廿六番	伊丹 重賢

○議長 本日ハ第三百三十七號議案第三讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘ

午前第十時五分開場  
廿七番 河瀬 眞孝

○廿番 佐野 常民 本官ハ別段ノ建議ヲ爲サントス則チ第二讀會ニ於テ陳述セシ原案第二章中第三第六兩條ノ修正ノコナリ惟フニ是修正意見ハ獨リ本官ノ意想ノミナラス苟モ此術ニ心ヲ留メ事ニ巧ミナルモノハ決テ異議ナカルヘシ之ヲ原書ニ規スモ亦同シ然レハ該兩條ハ本按中ノ主腦ニシテ決シテ之ヲ忽慢ニ付スヘキモノニアラス夫レ火藥製造場ノ災害ハ古今萬國其例ニ乏シカラズ其一破裂ノ禍ハ素ヨリ二三銃砲ノ比ニアラス一朝ノ龜忽ヨリシテ禍ノ四隣ニ迸發

スルハ豈寒心セサルヘケシヤ然ルニ其堅牢ヲ欲シ煉瓦石等ヲ以テ  
上下四面ヲ作造スル時ハ却テ激力ヲ來シ災害ノ他ニ及フコ最モ甚  
タシ是レ害ヲ豫防セシトシテ反對ノ惡果ヲ生スルモノト云ツヘシ  
仍テ彼是利害ヲ計畫シ本按ヲ修正シテ一旦製造セシ火藥ハ直ニ之  
ヲ倉庫ニ收ムルノ順序ヲ立テントス且其運送方等モ亦往々不十分  
ナルモノアリ因テ今一ノ修正案ヲ提出セントス故ニ第三讀會ノ始  
メニ於テ更ニ修正委員ヲ選ミテ之ニ修正ヲ委託シ再ヒ第三讀會ノ  
精神ヲ以テ開會シ然ル後第三讀會ニ及ハレシコヲ望ム抑本會ニ於  
テ此ノ如キ言ヲ發スルハ稍穩安ナラサルカ如シト雖モ目前此大災  
害ヲ扶助スルト否ト關係ル緊要缺ク可ラサルノ議按ナルヲ以テ敢  
テ之ヲ建議スルナリ請フ各位之ヲ了セヨ

○十二番 河野 敏鐘 賛成ス前ニ第二讀會ノ節ハ本官代ツテ議長ノ地ニア  
リテ發議ノ機ヲ得スト雖モ本按ハ往々修正スヘキ條項ナキニアラ  
ス就中廿番ノ說ニヨリ第五章第二條火藥水運ノ事ノ如キハ本官大  
ニ悟ル所アリ同條ノ但書ハ甚タ簡易ニシテ只腐敗物ヲ取扱フコヲ  
云フニ止ル如シ斯ル取扱ハ尤モ怪ムヘキコニシテ船中ニモ火車マ  
リ而シテ陸車ト違ヒ一失アレハ滿船忽チ災ニ罹ル原按五丁ヲ隔ヒ  
云々ノ語アリト雖モ船ニ五丁ヲ隔テタルモノハ之レ無キ譯ナリ彼  
○廿四番 細川 潤 次郎 賛成  
○八番 大給 恒 第二章中第三第六兩條場所建築ノコニ就テ二十番ノ防  
害ニ注意スルハ至極同意スト雖モ是僅々タル修正ニ止マラサレハ

三讀會ノ例規ニ依準セハ或ハ煩ニ堪ヘスト思量セシニ恰モ好シ今

○廿番ハ其説ヲ提出スルニ至レリ乃チ之ヲ委員ニ付シテ作按スルヲ

以テ至當ナリトス

○廿六番 伊丹重賢 賛成

○十六番 山田顯義 賛成ス本官ハ猶他ニ修正ヲ要ムルコアリ今併セテ之

ヲ陳セン第一製造場ノ周圍ヲ堅牢ニシ内ニハ木銅ヲ用ヒテ石鉄ヲ

用ヒサルハ通例ナリ又原按何貫目以上ノ字ヲ用フト雖モ火藥ニハ

灰火藥アリ綿火藥アリ彈力大ニ同シカラス而シテ一概ニ何貫目ト

云フハ慥實ナラス又堅牢ナル倉庫ヲ用テ人家稠密ノ所ニ二十貫目

ヲ許ストアリ良シヤ堅牢ナリトモ通常ノ倉庫ニテハ容量ニ堪ヘス

又運送ノ條々ニモ貫目ノ事茫乎トシテ判然ナラサルモノアリ此等

悉ク修正ヲ要スルヲ以テ廿番ノ建議ニ左袒ス

○議長 廿番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ廿番ノ建議ニ決シ五番 秋月種樹 二十番 佐野常民

廿六番 伊丹重賢 ヲ修正委員トシ尙委員ノ報告ヲ待チ第二讀會ノ精神ヲ

以テ議會ヲ開クヘシ散會セヨ

午前第十時三十二分閉場

記者曰修正按ハ次會ニ於テ朗讀セス故ニ左ニ掲載シテ參考ノ便

ニ供ス

火藥取締修正大意



八  
曩ニ内閣ヨリ下附セラレタル火藥取締規則ヲ閱スルニ凡ソ軍用ノ火藥裝彈等ハ一切之ヲ製造スルコトヲ禁ス但鑛坑及道路開鑿其他職業等ニ用ユルモノハ之ヲ製造スルコトヲ許ストアリ本官等案スルニ火藥ハ軍需最大ノ品ニシテ其性ノ危險ナル之ヨリ大ナルハ莫シ此取締規則ヲ要スル所以ナリ今人民ヲシテ私ニ之ヲ製造セシムル時ハ工人等ノ不注意ヨリ往々爆發ノ大害ヲ勾起スルノ恐ナキ能ハス而テ軍需ニ於テ其便ヲ缺クコトアリ故ニ更ニ一步ヲ進メテ凡ソ人民ノ私ニ製スルモノ一切之ヲ禁スルニ如ストス今其便益ノ大要ヲ舉ルコト左ノ如シ

第一 國家ヲ保護スル爲メ政府ニ於テハ常ニ必用火藥ノ量ヲ貯ヘサルヘカラス因テ全國官庫ニ貯藏スル所ノ數量ヲ計算シ準備ニ充

分ナラシメ且人民ノ爲ニ若干ノ數量ヲ計リ之ヲ製造シ商人ニ拂下ケ全國ニ配布スル時ハ事ニ臨ミ或ハ軍用火藥ノ缺乏有ルモ之ヲ全國ヨリ收集スレハ同品位ノ火藥ヲ得可ク縱令其差等アルモ僅カニ工力ヲ加レハ軍用ニ供スルヲ得ヘクシテ即チ軍用ノ豫備ニ供スルノ便益アリトス

第二 物ノ危險ナル火藥ヨリ大ナルハ莫シ是製造所ノ構造器械ノ設備貯藏運搬等ノ方法ニ嚴密ナル規則アル所以ナリ若シ人民ノ製造ヲ許ストキハ悉皆其規則ニ依ラシムヘシト雖モ製造人等ノ目的トスル所ハ射利ノ一點ニ外ナラス其嚴密ノ規則ニ準フトキハ費用過大ニシテ得失相償ハス啻ニ精良ノ品種ヲ製スルヲ得サルノミナラス爆發豫防ノ方法其注意ヲ缺キ往々不測ノ禍害ヲ來スヲ免レス

然ラハ人民保護上ヨリ製造スルヲ禁止スルニ如カス即チ爆發ヲ豫防スルノ便益アリトス

第三 人民需用ノ火藥ヲ官ヨリ之ヲ賣下スル時ハ一時ニ多量ヲ貯藏スルヲ得ス或ハ匪徒ノ不逞ヲ圖ル者アルモ多量ノ火藥ヲ聚收スルヲ拒クヘシ且官ニ在テハ豫メ全國ノ現在セル火藥ノ品種并ニ其總計ヲ知ルヲ得是内亂ヲ未發ニ防遏スルノ一端トス可シ即チ匪徒ヲ防遏スルノ便益アリトス

第四 國家若シ事有ル時ハ兵ヲ配シテ火藥製造所及ヒ貯藏所ヲ防衛セサルヲ得然ルニ私ニ製造スルヲ許ス時ハ火藥各所ニ散在シ防衛疎漏ニ涉ルヲ免レ難シ若シ官特リ之ヲ製造貯藏スレハ平時ニ於テ設置其便宜ヲ圖リ隨テ事有ルノ日ニ於テ防衛配衛ノ豫備ヲ爲

スヲ得ヘシ即チ戰時護衛ヲ爲スノ便益アリトス

第五 官全備ノ器械ヲ設ケテ火藥ヲ製造スル時ハ質分精良ニシテ射ノ功力強大ナリ且工力省減シ又其利ヲ網スルニ非サレハ其價從テ廉ナルヲ必セリ然ルニ人民其私益ノ爲ニ製造スルモノハ器械或ハ完備スル能ハス品位亦從テ麤惡ニシテ事ニ臨ミ官製ト其効用ヲ同クスルヲ能ハサルノミナラス工ヲ費スヲ多クシテ其價亦從ツテ貴キニ至ラン即チ品位ノ精良ヲ得ルノ便益アリトス

第六 敗藥ニ屬スルモノ有リ假令軍用ニ供スヘカラサルモ鑛坑職業用等ニ用ユルヲ得ヘシ其價ヲ廉ニシテ賣下スル時ハ官ニ在テハ更造ノ勞ナク人民ニ在テハ廉價ノ品ヲ得ルノ益有リ即チ敗藥ノ價廉ナルヲ得ルノ便益アリトス



第三條 左ニ記シタル人民需用ノ火藥裝彈雷管ハ此規則ニ從ヒ免

許商人ヨリ之ヲ買取ルコトヲ得ヘシ

一 鑛坑及道路開鑿又ハ煙火其他職業用

一 西洋形船舶設備ノ大砲小銃及免許銃獵銃并ニ和銃五目四匁八分以下但開拓使管下ハ玉

以下其他官署ノ改印ヲ受タル銃用

第四條 免許證人ヲ分ツテ卸賣小賣ノ二種トス卸賣商人ハ一管内

五人以内小賣商人ハ一管内十人以内之ヲ免許スヘシ

第五條 免許商人タラント欲スル者ハ管轄廳東京ハ警視局ヘ願出テ免許

鑑札ヲ受クヘシ

第六條 管轄廳東京ハ警視局ニ於テハ商人ノ身元正確ニシテ且火藥取扱

方ヲ了知スル者ヲ認メ免許鑑札ヲ與フヘシ但卸賣商人ハ陸軍省

ニ稟請ノ上之ヲ免許シ小賣商人ハ直チニ之ヲ免許ス

第七條 管轄廳東京ハ警視局ニ於テ火藥商人ヲ免許シタルトキハ地名入

名ヲ具シ其時々内務陸軍兩省ヘ申報スヘシ

第八條 免許商人ヨリ届出タル賣買ノ數量ハ管轄廳東京ハ警視局ニ於テ

別紙表圖ノ如ク總計表ヲ製シ每半年七月内務陸軍兩省ヘ申報ス

ヘシ

第九條 非常ノ際ニ當リ火藥裝彈雷管ノ賣買運搬ヲ停止スルコト

ルヘシ

第二章 賣買

第十條 卸賣免許商人ハ砲兵本支廠若クハ鎮臺并鎮臺分營又ハ箱

館礮臺ヨリ其需用ノ火藥裝彈雷管ヲ買受ケ之ヲ小賣免許商人ヘ

賣渡シ又自カラ小賣ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第十一條 銃獵及ヒ鳥獸威シ銃室内射的營業煙火製造ノ免許ヲ得

タル者ハ直ニ免許商人ニ銃獵免狀又ハ營業許可証等ヲ示シ其需

用ノ火藥裝彈雷管ヲ買取ルコトヲ得ヘシ其一回買取ノ數量ハ每種

左ノ程限ヲ超ユヘカラス

火藥 壹貫目未滿

裝彈 千發

雷管 壹貫目未滿

室内銃用 雷管 壹貫目未滿

煙火製造用 雷管 壹貫目未滿

第十二條 前條ノ免許ヲ得タル者ニ非スシテ銃獵射的等ノ爲メ左

ニ記シタル火藥裝彈雷管ヲ買ハントスル者ハ警察署ノ認可ヲ受  
テ其証ヲ免許商人ニ示シ買取ルコトヲ得ヘシ其一回買取ノ數量ハ  
每種左ノ程限ヲ超ユヘカラス

火藥 壹貫目未滿

裝彈 千發

雷管 壹貫目未滿

室内銃用 雷管 壹貫目未滿

煙火製造用 雷管 壹貫目未滿

第十三條 坑業其他職業用ノ火藥ヲ買ハントスル者ハ其時々需用

ノ主意及數量ヲ詳記シ壹貫目未滿ハ警察署壹貫目以上ハ管轄廳

警視局ノ認可ヲ受テ免許商人ニ其認可証ヲ示シ買取ルヘシ

第十四條 獵銃及射的銃用等ノ内特殊ノ銃類ニシテ外國製ノ火藥

裝彈雷管ヲ要スルトキ免許商人ハ其事由ヲ具シ管轄廳東京ハニ  
願出管轄廳東京ハニハ陸軍省ニ稟請シテ之ヲ許可スヘシ

第十五條 西洋形船舶設備ノ大砲小銃用彈藥ハ第十一條ノ手續ニ

準シ其數量ハ明治八年第九十八號布告ノ第二條大砲一門ニ彈藥

ニ同百發ヲ越ニ從フヘシ

但雷管ハ其二倍ノ數ヲ超ユヘカラス

第十六條 免許商人ハ買人示ス所ノ免狀又ハ認可証ヲ檢シ前條々  
ノ數量程限ニ照シ賣渡スヘシ而シテ其買人ノ住所姓名及數量月  
日ヲ詳記シ月々警察署ヘ届出ヘシ

第十七條 免許商人ハ販賣用火藥類ヲ官ヨリ買受ケ又ハ卸賣商人  
ヨリ買入ルメトキハ警察署ノ認可ヲ受クヘシ

但免許商人ヨリ既ニ賣渡シタル所ノ火藥類不用ニ屬シ更ニ

賣拂ハント欲スル者アルトキ免許證人ハ本條ノ手續ニ依リ之

ヲ取ルコトヲ得ヘシ

第三章 貯藏

第十八條 火藥類ヲ貯藏セントスル者ハ以下各條ニ從ヒ管轄廳東京

ハ願出テ許可ヲ受クヘシ

但壹貫目未満ノ火藥千發未満ノ裝彈雷管ハ此限ニ在ラスト

雖モ必ヲス倉庫内又ハ火氣遠隔ノ處ニ貯藏スヘシ尤モ強盛ノ

爆發力ヲ有スル火藥綿煙筒ハ別段ノ許可ヲ得ルニ非サレハ貯

藏スヘカラス

第十九條 壹貫目以上五貫目未満ノ火藥裝彈及煙火ハ只火藥ノ量

ハ何ノ地ヲ間ハス人家ヨリ凡七間以上五貫目以上五十貫目未滿  
ハ凡七十間以上隔離スル倉庫ニ非サレハ貯藏ス可ラス

但周圍ニ丘陵堤壘等アリテ危險ノ虞ナキ地ハ必シモ此制限ニ  
拘ラサルヘシ

第二十條 五十貫目以上ノ火藥貯藏庫ハ左ニ記シタル土地ニ於テ  
ハ設置スヘカラス

一 府並ニ開港場市街内及ヒ其市街外ヨリ拾五町以内ノ地

一 人家稠密ノ町村内及其區域外ヨリ八町以内ノ地

一 人家稀疎ノ地ハ其人家ヨリ二百間以内ノ地

一 往還道路ヨリ二百間以内ノ地

一 御陵墓及官國幣社區域外八町以内ノ地

陸海軍省所轄ノ火藥製造所及火藥庫牆壁外ヨリ八町以内ノ地

第二十一條 前條ノ火藥貯藏庫ハ爆發ヲ嚴防シ内部ニ鐵釘等ヲ露  
ハサス磚石ヲ用ヒ

ノ周圍ニ堅牢ナル牆壁高サ一  
丈以上ヲ築キ避雷針ヲ設ケ赤地ニ火藥

ノ二字ヲ書シタル旗ヲ建ツヘシ且牆壁外凡ソ十四間以内ノ地ニ  
於テハ建物ヲ設ケ材木秣草其他燃質物ヲ蓄積スヘカラス

第二十二條 人家遠隔ノ地ニ於テ一時ノ坑業等需用ノ爲メ買入ル  
、火藥ノ貯藏方ハ必シモ前條ノ制限ニ拘ハラサルヘシ

第四章 運搬

第二十三條 五貫目以上ノ火藥ヲ運搬セントスルキハ豫メ其數量  
及發著場所日時並ニ通過水陸地名ヲ詳記シ警察署ヘ届出テ許可  
ヲ受ク可シ

但五貫目未満ハ此限ニアラスト雖モ必ス慎重ニ取扱フ可シ  
第二十四條 運搬ノ火藥ハ樽又ハ箱ニ入レ晴雨ニ拘ラヌ桐油又ハ  
帆布ノ類ヲ以テ其上ヲ覆ヒ且ツ赤地ニ火藥ノ二字ヲ書シタル小  
旗ヲ建テ必ラス護送人ヲ附スヘシ

但水路運漕ニ方リ船積スルノ法ハ明治六年第三百九十二號布  
告ニ從フヘシ  
第二十五條 途中ハ都テ火氣ヲ警シ若シ休息スルモハ人家ヨリ  
凡五町以上隔テタル所ニ限ル可シ

第二十六條 烈風雷雨ニ方テバ已ムヲ得サル場合以外運搬ス可カ  
第二十七條 途中宿泊ヲ要スルトモキハ人家稀疎ノ地ニ於テ相當ノ

倉庫ニ保藏シ夜中不寐番人ヲ附スヘシ

第五章 罰則

第二十八條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ火藥類及製造器械ヲ沒收シ一年  
以上二年以下ノ懲役又ハ百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ或ハ

三罰併セ科スヘシ

一軍用ノ火藥類ヲ竊ニ製造スル者

一軍用ノ火藥類ヲ竊ニ外國人ヨリ買入タル者

第二十九條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ火藥類及製造器械ヲ沒收シ六月  
以上一年以下ノ懲役又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ或ハ

二罰併セ科スヘシ

一軍用ノ火藥類ヲ竊ニ賣買貯藏運搬スル者



但五貫目未満ハ此限ニアラスト雖モ必ス慎重ニ取扱フ可シ

- 一 諸職業用火藥及免許銃用火藥類ヲ窃ニ製造スル者
- 二 全上ノ火藥類ヲ窃ニ外國人ヨリ買入タル者

第三十條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ火藥類ヲ沒收シ壹圓以上五拾圓以

下ノ罰金ニ處スヘシ

- 一 免許ヲ得スシテ諸職業用火藥及免許銃用火藥類ヲ賣買貯藏運搬スル者
- 二 火藥類買入ノ認可証ヲ再用シタル者

一本規則中罰則外ノ諸條ヲ犯シタル者

會事ニ對シテ中不潔者入マシムルハ...

明治何年自八月管内火藥類總計表

開拓使  
東京府  
警視廳  
本署  
縣署

管	雷	彈	裝		藥		火		品	種	買		賣		現貯藏數量	
			船設備	西洋形船	免許銃其他官署ノ改印ヲ受ケタル銃用	免許銃其他官署ノ改印ヲ受ケタル銃用	鑛坑及道路開鑿用	煙火等職業用			國外	高	國外	高	國外	高
合計	室內銃用	西洋形船	船設備	西洋形船	免許銃其他官署ノ改印ヲ受ケタル銃用	免許銃其他官署ノ改印ヲ受ケタル銃用	鑛坑及道路開鑿用	煙火等職業用	卸賣商人	小賣商人	國外	高	國外	高	國外	高

十二番 河野 敏鎌  
 十五番 津田 眞道  
 十七番 楠田 英世  
 十九番 河田 景興  
 二十番 佐野 常民  
 廿一番 岩下 方平  
 廿三番 柳原 前光  
 出陣編官廿六番 伊丹 重賢  
 廿七番 河瀬 眞孝  
 琢

〇第百三十三内閣委員番外太政官少書記官股野 琢  
議員

元来開午前第十時二十分開場二十八日

〇議長 第百三十七號議按第二讀會ノ續會ヲ開ク然ルニ下付ノ原按  
 ト修正按トノ二個ヲ選何レヲ以テ本按ト爲スヘキヤノ決ヲ取ラシ  
 下ス六議

〇二十三番柳原前光原按ニ依ルヲ是トス乃チ修正委員ノ報告按ナル人  
 民ノ私ニ火藥ヲ製スルヲ禁止スヘシトスル緒言ノ六件ヲ論駁シ大  
 ニ國家ニ於テ其不便益タル所以ヲ條述セシ第一ニ曰ク國家ヲ保護  
 スル爲メ政府ニ於テハ常ニ必用火藥ノ量ヲ貯ヘサルヘカラスト思  
 クニ政府ニ於テ必用トスル火藥ハ必ス花火狼煙用ノ類ニ非スシテ  
 軍用ノ爲メナルヘシ又全國官庫ニ貯藏スル所ノ數量ヲ計算云々ト  
 アルモ是レ決シテ難事ニ非ス本官ヲ以テ之ヲ視ハ人民ノ私製ヲ禁  
 セサルモ官庫ニ貯藏スル數量ノ不明ナル理由ハ萬々之レナシト

又政府ニ於テ人民ノ爲ニ若干ノ數量ヲ計リテ製造シ商人ニ拂下ケ全國ニ配布スル時ハ火藥缺乏ノ際之ヲ收集スレハ同品位ノ火藥ヲ得ヘシト云フト雖モは大ナル誤リナリトス已ニ同品位トアレハ人民ノ所望ハ常ニ同品位ヲ欲スルモノト定メサルヘカラス然ルニ人民ハ各其心ヲ殊ニシ或ハ上等ヲ欲スルアリ或ハ下等ヲ望ムアリ職獵ノ爲ニスルアリ遊獵ノ爲ニスルアリ西洋古銃ノ爲ニシ又新銃ノ爲ニシ狼煙花火ノ爲ニシ甚シキハ花火線香ノ爲ニスルモノアリ其用ル所既ニ殊ナレハ其欲スル所亦異ナラサルヲ得ス故ニ政府而已ニテ火藥ヲ製造シ商人ニ拂下ルモ決シテ同品位ノ火藥ノミナルヲ得ヘカラス而ルヲ強テ之ヲ同フセハ即チ人民ニ大不便ヲ與フル者ト稱スヘシ又縱令差等アルモ僅カニ工力ヲ加レハ軍用ニ供スル

ヲ得ヘシト云フカ如キハ其官製ト私製トヲ問ハス皆然ラサルヲ得サルナリ第二ニ曰ク物ノ危険ナル火藥ヨリ大ナルハ莫シ云々ト固ヨリ之カ爲メニ其製造所ノ構造器械ノ設置運搬ノ方法ニ就キ嚴密ナル規則ヲ制定スルハ可ナレト之ヲ以テ辭柄トシ人民ノ私製ヲ禁スルハ是レ火ヲ恐レテ近ケス水ヲ懼レテ飲マス水火ノ功用ヲ失シテ爲メニ饑渴シ或ハ暖ヲ取ルニ地ヲ失フノ類ニシテ偏倚モ亦甚タシトス第三ニ曰ク官ヨリ賣下ル時ハ一時ニ多量ヲ貯藏スルヲ得スト夫レ商人ナル者ハ不時ノ需メヲ待ツモノナリ今其多量ヲ貯藏スルヲ得ストセハ則チ其業ヲ妨クルモノナリ其利ヲ害スルモノナリ且其多量ト云フハ漠然トシテ其經界ナシ果シテ幾貫目以上ヲ以テ多量トスルヤ必ス其解義ニ苦シマン又全國ノ火藥品位ノ總計ヲ知

ルハ私製ヲ許スモ其管理ノ方法ヲ設立スルニ於テハ必ラス能ハサルニ非ス又未文ニ所謂内亂ヲ未發ニ防遏スト是蓋シ修正委員ノ以テ最大眼目ト爲ス所ナルヘシト雖其惑タル亦太甚シ抑々内亂ノ起因ハ火藥ニ非スシテ乃チ人心ノ向背ニアリ政事ノ善惡ニアリ人民ノ賢愚ニアリ教育ノ良否ニアリ是レ之ヲ察セスシテ漫ニ火藥取締ヲ嚴ニシ軍用ニ非サル火藥類ノ私製ヲ禁スルハ豈迂濶ト言ハサルベケンヤ加之内亂ヲ防遏スルハ既ニ原按第一條ニテ盡セリ然ルニ修正委員ハ之ヲ以テ慊レリトセスシテ妄リニ人民ノ私製ヲ禁スルヲ目的トス是レ其人民ノ獵銃ヲ以テ一揆ヲ起スヲ恐ル、カ狼煙ヲ恐ル、カ抑々花火線香ヲ恐ル、カ誠ニ是ノ如クシハ新燧社ノ摺附木ヲ製スルモ禁セサルヘカラス蓋シ内亂ヲ防禦スヘキハ軍用ニ

アリ原按第一條ニ曰ハスヤ凡軍用ノ火藥裝彈雷管ハ官用ノ外製造又ハ賣買貯藏運搬スルコトヲ許サスト之ヲモ不足トセハ何ヲ以テ足レリトスルカ此ノ如キハ其底止スル所ナカルヘシ是レ本官ノ大ニ不可ヲ唱フル所以ナリ政府既ニ三萬以上ノ常備兵アリ三千以上ノ近衛兵アリ數千ノ巡查アリテ堂々整々内憂外患ヲ防クヲ得ヘシ何ヲ必スシモ獵人火繩筒ノ一揆花火線香ノ暴發ヲ恐ルヘケンヤ縱ヒ官ノ製造所ナルトモ既ニ西南ノ亂ニハ私學校黨之ヲ掠奪シ前原一誠ノ杖ニ叛スルヤ又之ヲ奪ヘリ是ヲ以テ之ヲ視ハ官府而已ニテ製造スルモ猶内亂ヲ拒クニ足ラス故ニ曰ク内亂ヲ豫防スルハ火藥取締ニ非スト第四ニ曰フ所ノ理由ハ官ニ於テ製スルモ人民ニ於テ製スルモ毫末異ナルコトナシ如何トナレハ修正委員ハ人民ノ私製ヲ禁

スト云フモ尙修正第四條ニハ免許商人即チ御賣小賣ノ二種トスト  
アリ然ラハ此御賣人小賣人ノ貯藏スル所且購求者ノ有スル所固ヨ  
リ各所ニ散在スヘケレハナリ第五ニ曰ク官ニテ製スレハ精良且廉  
價ナリト嗚呼是レ何ノ理ソヤ凡ソ物精良ナレハ其價尊ク粗惡ナレ  
ハ其價卑キハ古今一定ノ理ナリ又縦ヒ官ニテ製セハ廉價ニテ發賣  
スルヲ得ルモ此ノ如キハ敢テ美事ト云フ可ラス抑々國稅ハ人民ノ  
智力ヲ費ヤシ又ハ體力ヲ勞シテ成ズモノナリ而シテ此國稅ヲ以テ  
海陸軍省ノ定額金トナスハ素ヨリ當然ノコト雖モ今此國稅ノ幾分  
ヲ以テ火藥ヲ製造セント云ヌハ之ヲ濫費スルモノナリ且官ニテ之  
ヲ賣出スハ極メテ嫌フヘク極メテ避クヘキトナリ如何トナレハ官  
ヲシテ商人ノ想ヒアラシメシカ即チ其製造品ノ高價ニ赴クヲ企望

シ專賣ノ弊遂ニ人民ノ困苦ヲ來スノ恐レアリ又商人ノ想ヒナカラ  
シメンカ目下軍用ノ銃器火藥類ト雖モ猶且製造不充分ノ秋ナリ然  
ルニ人民ノ獵銃等ニ用フル所ノ彈藥ヲモ製造セシメ其便利ヲ失ハ  
サラシメシコヲ期望スルハ豈難カラヌヤ加之軍人ハ文官ニ比スレ  
ハ動モスレハ粗漏ニ流レ注意ヲ缺クノ弊アリ之ニ反シテ人民ヲシ  
テ自造セシメハ固ヨリ其生計ノ爲メニスルヲ以テ其注意モ之ヲ官  
吏雇人ニ比スレハ更ニ慎密ナルコヲ得ルヤ疑ヒノ容ルヘキナシ故  
ニ本官ハ人民ニ其製造ヲ許セハ其精其廉敢テ官ノ企テ及フ所ニ非  
サルヲ信ス第六ニ所謂敗壞云々ノ如キハ最モ採ルニ足ラサルノ論  
ナリ何トナレハ今日ノ制度官物ノ陳腐ナル者ハ獨リ火藥ニ限ラス  
皆其拂下ケヲナスコト比々是ナリ何ソ人民ノ私製ヲ禁スルコトニ關係

六  
世シヤ且獨リ官ノ敗藥ヨリ鑛坑職業ニ用フルヲ得テ人民私製ノ敗藥ハ鑛坑職業ニ用フルコヲ得サルノ理ナシ是ノ如ク論破シ來レハ修正委員ノ報告書ハ水泡ノ如ク消滅ニ歸スヘシ委員ハ歐洲諸邦ノ政府ハ煙艸及食鹽ヲ專賣スルアルノ例ヲ引テ原按ヲ駁スレトモ是必ス然ルヘキ理由ノ存スルアリテ慣例トナリ今遽カニ變更シ難キヲ致ス所ナルヘシ是ヲ以テ我今日新ニ火藥私製ヲ禁スルノ理由ト爲スヘカラス佛國ノ如キハ革命變亂甚タ多ケレハ想フニ内亂鎮壓ノ術策ナルヘシ今我政府ヲ以テ之ニ倣ハシムルハ即チ我人民モ亦彼國人民ノ氣象ヲ萌スノ勢ヲ生セン上疑ヘハ下信セス影響相應スルハ其理ナリ慎テ其不祥ヲ避ケサルヘカラス之ヲ概スルニ本官ノ所見ハ歐洲政府ノ食鹽也火藥也其專賣ニ歸スルモノハ大ニ文明

自由ノ主義ニ反シ採ルニ足ラス用フルニ足ラストス茲ニ我全國火藥製造者ノ表ヲ視ルニ其數二十四人雷管製造者七人其他右關係ノ事業ニ從事シ生計ヲ營ム者數百人アリ大約右ノ如シ然ルニ今一朝私製ヲ禁セハ此等ヲシテ忽チ其產業ヲ失ハシム亦憫ムヘキノ至リナリ且明治八年七月ヨリ同ク九年六月迄職獵遊獵免許鑑札ノ税金ヲ閱スルニ金四萬六千九百貳拾餘圓但遊獵稅八十圓ナルモ其數僅ニ七百人ニ滿タス而シテ職獵稅壹圓ナレハ職業人四萬人ト算スルモ有餘ナカルヘシ然ルニ職業者ハ之ニ依テ生活ス多クハ和銃ヲ用フル者ナルヘシ然ルニ陸海軍省ニテ軍用ノ銃器火藥ト雖モ製造不十分ノ秋ナレハ獵人ノ用フル火繩筒ノ彈藥迄モ製造シ其便ヲ欠クコナカラシムル能ハサルハ銃ニ懸テ見ルカ如シ是亦其人民ノ困難

ヲ來スノ一理由ナリ修正委員ハ六箇條ノ理由ヲ以テ人民ノ私製ヲ  
嚴禁センコトヲ欲スト雖モ其頼ム所ハ本官ノ辯駁ニテ已ニ全ク破レ  
タリトス要スルニ委員ノ意見ノ如キハ政府ニ於テ漫ニ商賣ヲナシ  
人民ノ産業ヲ壓抑シ其製造ヲ禁シ之カ爲メニ其生活ノ途ヲ失ハシ  
メ且職獵者ヲシテ其職業ノ不便ヲ生セシメ遊獵者モ亦歡樂ヲ失シ  
健康ノ道ヲ狹クスルモノト云フニ加フルニ政府ノ規模狹隘ナル  
ヲ明示シ其恐ル、所終ニ火繩筒ノ火藥ニモ及ホスニ至ルハ何ノ事  
ソヤ其私製ヲ禁スルト否トノ利害ハ此ノ如ク其レ判然タリ故ニ報  
告書ヲ廢却シ直チニ内閣下附ノ原按ヲ以テ本按トナシ議定センコ  
トヲ欲ス且本官ノ思慮ハ全ク修正委員ノ意匠ニ反シ火藥ノ準備ハ實  
ニ今日國家ノ急務ナレハ人民ノ製造益々旺盛ナルヲ冀望スルナリ

何ナレハ人民ニ於テ軍用ニ非サル火藥ヲ製造スルモ其火藥タル  
硝磺類ハ軍用ニモ用フヘキ者ナレハ設シ外國ニ難事起リ局外中立  
ヲ行ハルニ及ビテ忽チ不自由ヲ來サシ故ニ私製ヲ盛大ニセシム  
ルヲ宜シ事ス即チ國ハ官私相待チ全國ノ力ヲ以テ興起スル者ナレ  
因ナレ故ニ道義ニ就テ論スルモ政事上ニ就テ論スルモ化學上ノ進  
歩ニ就テ論スルモ決シテ人民ノ私製ヲ禁スヘカラス乃チ原按第一  
條ノ如ク單ニ軍用品ノ私製ヲ禁スル而已ニテ足レトスルナリ  
○二十番<sup>佐野</sup> 二十番ハ痛ク本官等修正ノ按ヲ駁スト雖モ該按ノ  
如クナラサルハ<sup>常民</sup>カヲサル理由ハ即チ其辯言ニ盡クシタルヲ以テ各  
位モ之ヲ解得スヘシ然レモ目下二十三番ノ駁撃アルニ依リ更ニ其  
報告書ノ大意ヲ述ヘシ抑モ本官等之ヲ起草スルニ當リ陸軍省及ヒ

警視廳ノ主任者ニ對シ懇々之ヲ照會セシニ近來火藥爆發ノ爲メニ  
害ヲ蒙ル者年々數十百人ニ及フト云フハ是未タ其管理ノ法ヲ得  
ザルカ爲メナリ聞ク歐米各國ニハ其法極メテ精密ニテ亦能ク其害  
ヲ防ズニ足ルト惟フニ歐米ノ砲銃ヲ以テ戰ヲ爲スハ猶古來日本ノ  
刃槍ニ於テ亦ルガ如クナルヲ以テ其管理法ノ具備スル亦大ニ其理ナ  
キニ非ヌ因テ彼方法ヲ明カニシ其美ヲ拔キ其善ヲ擇ミ以テ之ヲ規  
則ヲ制定セザルニ必スヤ憂虞オカカルベシ因テ之ヲ彼ニ徵スルニ歐米ニ  
テハ火藥等ハ獨リ政府ヲ製造スル者ト人民ヲ私製ヲ許ス者トノ二  
アリ仍テ現今其最モ我ニ適シ亦其便多キモノヲ撰ミ前陳兩官衙ノ  
主任者ト討議詳論始メテ此法按ヲ草セリ然ルヲ二十三番ハ唯之ヲ  
指シテ内亂ヲ防クメ具ナリト云フハ眞ニ意外ノ言ト云フヘシ修正

ノ本意ハ第一人民ヲ保護シ第二官民ノ便益ヲ圖ル是レナリ本邦ノ  
現況ヲ察スルニ火藥製造等ハ陸海軍省ト雖モ未タ其精功ヲ極ムル  
ニ至ラス況ヤ人民ヲヤ是レ往々其爆發ノ變ヲ免カレザル所以ナリ  
又人民ノ利益ト云フモ僅ニ免許ヲ受ケタル者ハ二十餘人ニ止マル  
ノミニシテ世人ノ需用ニ供スルモノハ其何レヨリ之ヲ買フモ毫モ  
妨ケナクナリ然ルニ此僅々タルモノヲ偏愛シ多少ノ人命ヲ死傷セ  
シムルニ至ルハ豈慘嘆ニ堪ユヘケンヤ本官等深ク此ニ見ル所アリ  
故ニ製造所ヲ一二ヶ所ニ集合スルノ方法ヲ立テ全ク危險ヲ防キ得  
ヘキ術策トナス蓋シ歐米ニ在テハ人民ヲ製造者モ必ス大量ニシテ  
我僅ニ十貫目或ハ二十貫目ヲ造ルモノトハ霄壤ノ差アリ然レモ我  
邦ニ於テモ人民ハ克ク其危險ヲ防キ其構造政府ト同一ニ爲シ得ヘ



シト云ハ、固ヨリ不可ナキモ如何セン諸品ノ製造ト共ニ人民ノ爲  
ス所ハ概シテ不十分ナルモノ多ク殊ニ火藥ノ如キハ其最タルモノ  
ナルコト然ルニ陸海軍省ハ之ヲ必用ト爲セハ早晚大ナル製造ヲ爲  
サ、ルヘカラス故ニ其製造中人民ノ需用ヲモ製シ得テ之ヲ販賣セ  
ハ品位自ガラ精良ニシテ官民ノ便益ナリト云フノヨリ二十三番ハ人  
民ノ利益ヲ政府ニ奪掠スト思惟スルカ如キモ是其保護ト便益トノ  
二ツヲ玩味セサルノ説ナリ且其品ノ精良ニシテ價ノ廉ナル火藥ヲ  
得ルニ至ルハ本官之ヲ歐洲ニ徵シテ誤ラサルヲ信ス且外國條約ニ  
記スル所軍用品ハ政府ニ賣ルノ外他ニ販賣ヲ許サス是火藥ハ即チ  
軍用品ナルヲ以テ其取締上ヨリ來ルモノナリ又論者ハ現在二十餘  
人ノ火藥製造者アリテ忽チ廢業ニ至ラント論スルモ當初其免許ヲ

得タル原由ヲ知ラハ其惑ヒハ自ラ釋然タルヘシ元來我邦ニテハ火  
藥等ハ商人ヲシテ製造セシメス舊諸藩ニテ之ヲ造リタルモノナリ  
即チ是レ官製ト同一ナリ而シテ其製造ヲ商人ニ免許シタルハ明治  
十年西南ノ役ニ方リ人民ニ拂下ル火藥ノ不足ヲ生シタルヲ以テ之  
ヲ許セシニ起因シ爾來今日ニ至ルマテ其製スル所僅ヤ一萬五六千  
貫目ニ過キス若シ政府專賣ノ點ヨリ爲スモノトセハ乃チ二十三番  
ノ説ノ如シ然リト雖モ政府獨リ之レノミナラス各種物品ノ製造事  
業ニ着手セサルヘカラサルモノアリ羅紗生絲製造等ノ如キ是ナリ  
若シ我慣習ヨリ之ヲ見レハ歐米ハ何ノ理由アリテ人生一日モ欠ク  
ヘカラサルノ食鹽ヲ以テ政府ニ之ヲ專賣スルヤ藥品ノ硝石ハ何ニ  
由テ壟斷スルヤト排斥セサルヘカラス蓋シ彼ノ如キハ乃チ政府利

益ノ一點ヨリ出ルモノナラン本案ノ如キハ然ラス人民ノ保護ト官  
民ノ便益トノ二點ニ生シ猶且陸軍省ト警視廳トノ主任者ニ圖リテ  
修正セシモノニテ内閣委員モ亦既ニ之ヲ可トセルナリ又敗藥ナル  
モノハ軍用準備ノ爲メ年々積ミ換ユル時ニ方リテ之敗棄スルモノ  
ナレハ他ニ販賣スルハ官民ノ便益タリ故ニ假令之ヲ政府ノ專賣ト  
云フモ特典トナスモ素是國家ノ保護ト官民ノ便益トヲ圖リタルモ  
ソナレハ決テ此等ノ毀譽ニハ干セサルナリ且目下製造人ノ破産ニ  
至ラシコトヲ憂ヒ其器械等ハ都テ陸軍省ヘ買上ルノ目的ナリ抑モ意  
見ナルモノハ其一方ニ偏スルニ於テハ際限ナシト雖モ虚心平氣以  
テ本官ノ陳述スル所ヲ聞カハ其理自ラ明瞭ナルベシ但此修正ノ曠  
日彌久セシモ歐米ノ習慣本邦ノ景況等ヲ對照スルニ方ニ焦思甚念

終ニ遲延ノ因トナリシナリ若シ此修正按ヲ廢却スルニ至ラハ眞ニ  
無用ノ苦心ニ屬スルナリ又禁製ノ禁製ノ禁製ノ禁製ノ禁製ノ禁製ノ  
○二十三番柳原前光二十番ノ説ハ毫モ本官ノ議ヲ動搖スルニ足ラス其  
主意果シテ人民保護ヲ目的トスルニ在レハ何ゾ私製ヲ禁スルヲ須  
ヒンヤ乃チ原按第一條ノ不足ヲ補充シテ足レリトス二十三番ハ警視  
廳報告ニヨレハ製造人二十四名ト云フトモ其他尙雷管ヲ製スルモ  
マアリ且一人ニテ爲スルカラサルヲ以テ其使役ニ供スル者ノ數ハ  
決シテ僅々ニアラサルナリ此等ハ皆其生活ヲ失シ且工業ノ進歩ヲ  
妨ツルノ害尠ナカラス又爆發ノ如キハ實ニ稀有ノ變事ニシテ本官  
未ダ曾テ二十番ノ論スル如ク其屢次オルヲ聞カサルナリ外國條約  
ニ軍用品云々ト記スト云フ上雖モ是レ軍用品ヲ云フモノニシテ本

官固ヨリ之ヲモ禁スヘシト云フニアラス即チ原按第一條ニモ云々  
トアリテ只非軍用ヲ禁スルハ不可ナリト云フノミ又羅紗製造等ノ  
事ヲ引用スルモ是亦政府ニ於テ永世此業ヲ爲スモノニアラス其他  
鑛道ノ如キモ終ニハ之ヲ人民ニ拂下クヘキモノタリ特ニ外國ノ例  
ヲ援キ云々スルハ彼我固ヨリ其宜キヲ殊ニスルヲ以テ皆悉ク彼ニ  
據ラサル可ラサルノ理ナシ是レ修正委員ノ勞苦ヲモ憚ラス此廢棄  
說ヲ主唱スル所以ナリ之ヲ要スルニ本官ハ人民私製ヲ禁スルノ說  
ヲ廢斥スルノミ然ルニ今幾多ノ日子ヲ費ヤシ陸軍省警視局ト照會  
シテ整成セシ按ナルヲ一朝之ヲ廢棄セントスルハ氣ノ毒ナルニ似  
タルモ寧ロ彼ノ人民ノ私製ヲ禁スルノ無情ナルニ比スレハ又忍ヒ  
難キニ非サルナリ

○二十番 佐野 常民 利害ノ異ナル點ハ既ニ陳述セシヲ以テ更ニ贅セス只  
修正按ハ其旨趣ノ異ナルニヨリ其實內閣ノ旨趣ヲモ伺ヒシニ乃チ  
修正按ニテ可ナリトノ意ヲ得タルモノナレハ既ニ原按ト交換セシ  
モノト云モ可ナラン蓋シ內閣ノ如何ニ關セス直接ニ之ヲ可否スル  
ハ議官ノ本色固ヨリ論ヲ竣サレテ修正按ノ爲メニ人民ノ權利ヲ害  
スル如キ顧慮ハ決シテ之ヲ要セサルナリ且官ニテ之ヲ製造スルカ  
爲メニ人民ノ進歩ヲ妨クル如キモノニアラス夫ノ坑業用煙火用等  
僅々タル量目ノ製造ヲ人民ニ爲サシムルトキハ其品粗惡ニシテ且  
危險ナリ決シテ政府ハ人民ト利益ヲ爭フノ謂ニアラサルナリ  
○二十三番 柳原 前光 再應二十番ノ説明アレバ人民ノ私製ヲ禁スル如キ  
暴政ハ設ヒ內閣ニテ可認スルモ本官ハ之ヲ廢斥セサルヘカラス既

ニ從來此ノ如ク其甚シカラサルモ内閣下付ノ議按ヲ廢棄シタルコト  
 尠少ナラス況ヤ今回フ如キ唯其照會ニ止マルモノヲヤ故ニ本官ハ  
 立法官タル本分ヲ以テ之ヲ廢棄セント欲スルナリ  
 ○二十番 佐野 常民 二十三番ハ修正按ヲ指シテ暴政ナリト論スルハ何ヲ  
 以テ然ルヤ本官ハ之ヲ仁政トナスナリ何トナレハ保護ト便益トノ  
 ニツカレバナリ若シ之ヲシモ暴政ト云ハ人民ノ直ニ外國ヨリ買  
 求スルヲ許サスシテ政府中間ニ立テ之ヲ買フカ如キハ將タ何トカ  
 云ハン修正按ノ如キハ到底官民ノ便益ヲ計ルニ外ナラス唯其迷惑  
 ナリト云フモ僅々二十餘人ニ過キサルノミ固ヨリ其二十餘名ニ對  
 シテハ忍ビサルコトアレモ公眾ノ便益ヲ圖ルニ於テハ又敢テ之ヲ忍  
 ハサル可ラス乃チ本官ハ之ヲ指シテ仁政ト云フノミ實ニ善カス

○二十三番 柳原 前光 暴政仁政ノ論ハ畢竟枝葉ナレハ姑ヲク之ヲ置キ更  
 ニ修正按ヲ不可ナル所以ヲ略陳セン此ニ銃獵稅ヲ調査スルニ職獵  
 稅ハ一期一圓遊獵稅ハ同十圓ニシテ職獵者ハ全國中四萬人以上遊  
 獵者ハ七百人未滿ナリ是等需用ノ火藥ハ蓋シ各地ノ製造者ヨリ購  
 求スルナルヘシ故ニ私製ヲ禁セハ陸海軍ノ軍用ニ支障アルコトミナ  
 ○ラス獵銃用ニモ不足スヘシ之ヲ要スルニ私製ヲ禁スルノ不可ナル  
 ト獵銃用ノ不便利ヲ來スノ不可ナルト外國ト交戦スル時ニ在テモ  
 私製アルヲ要スルトヲ以テ本官ハ益々廢棄說ヲ固守セサルヘカ  
 ス  
 ○二十番 佐野 常民 茲ニ私製ヲ禁シテ差支ナキ所以ヲ証センニ陸軍省ニ  
 テ拂下ル火藥ノ數量ト人民私製ノ數量トヲ比較セハ私製ノ分僅々

十ト一半トノ割合ニ過キス故ニ陸軍省ニテ拂下ケタル分ヲ製造スルニ決シテ差支ナキコトハ該省主任者ノ明言スル所ナリ猶且其僅々タル製造人ハ利益ナクシテ損失アリト聞ク然ラハ政府ニテ之ヲ引受ケタリトテ軍用ノ外ナル私用マテモ製造シ得サルコトナキヤ必セ

○外一番山崎 兩議未タ決セス果シテ其何レニ歸スルヤヲ知ル可ラスト雖モ原按ノ存亡ニモ關係アレハ望ラクハ早ク議場ノ問題ヲ定メラレンコトヲ

○十二番河野 二十三番ニ同意ス修正按ノ不可ナルハ二十三番ノ駁議ニテ之ヲ盡セルヲ以テ亦贅セサルナリ

○議長 二十三番ヨリ内閣下付ノ議按ヲ以テ問題ト爲スヘキ説アリ

之ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長 多數ナルニ依リ二十三番ノ議ニ決シ原按ヲ以テ問題ト爲ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

布告案

火藥取締規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

○但此規則ニ矛盾スル從前ノ布告布達ハ都テ廢止トス

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡軍用及火藥裝彈雷管ハ官用ノ外製造又ハ賣買貯藏運搬

○議長

○議長

○議長

○議長

書記官

第二條 左ニ記シタル火藥ハ此規則ニ從ヒ製造又ハ賣買貯藏運搬

スルコトヲ許ス

一 鑛坑及道路開鑿其他職業又ハ煙火用

一 西洋形船艦設備ノ大砲小銃及免許銃用火藥裝彈雷管ニ當リ

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

○議長

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

○議長

第三條 火藥製造場及貯藏庫ハ管廳ニ於テ其障礙ナキヤ否ヲ取調

ヘ之ヲ免許スヘシ

但製造場ハ每府縣各種拾ケ所ヲ限トス若シ坑業等需用ノ爲メ

豫メ其斤量ヲ定メ製造シ販賣ヲ要セサル火藥ハ尙此限外ニ於

○議長

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 火藥商人ハ管廳ニ於テ身元行狀ヲ取調ヘ其確實ナルヲ認メ之ヲ免許スヘシ

但每府縣拾五名ヲ限トス

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 火藥五貫目以上運搬方ハ警察署ニ於テ之ヲ認可シ速ニ沿道ノ

警察署ニ報告スヘシ

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第六條 火藥ノ製造場貯藏庫ハ警察官吏ニ於テ時々巡視スヘシ

○議長 本按ヲ可トスルモノハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第七條 開港開市場ニ於テ免許商人外國人ト火藥ノ賣買ヲ爲サシ

ト願出ルルハ管廳ニ於テ事實ヲ稽查シ五貫目以下ノ火藥并第三  
 章第五條ニ記シタル程限内ノ裝彈雷管ハ直ニ之ヲ許可シ其他ハ  
 管廳又ハ警視局ヨリ内務卿ニ使用ノ事實ヲ具申シ其指令ヲ請フ  
 可シ内務卿ハ其事情ヲ稽查シ之ヲ許否スヘシ

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

第六起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス時已ニ亭午ナルニ依リ以下午餐

後ニ讓リ暫時散會セヨ

○議長 正午閉場

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

午後第一時開場

○議長 午前ノ續會ヲ開クマシテ議案ノ列セキ者ハハ必メテ決則ニ  
 ○二十番 佐野 常民 本日ノ議事ハ頗ル奇異ナリ前會業已ニ第二讀會ヲ經  
 過シ第三讀會ノ始メニ於テ本官等此修正ヲ托セラレタリ然ルニ本  
 日ハ復タ第二讀會ノ議體ニ依ルカ如シ將タ之ヲ第三讀會ト爲スヤ  
 之ヲ請ヒ問フ

○議長 修正委員ノ報告按ハ已ニ廢棄トナリタレハ茲ニ原按ニ依テ

○再議スルナリ

書記官 戸田 秋成 人左ノ按ヲ朗讀ス

○第八條 府縣廳ニ於テ火藥製造場及火藥商人ヲ免許シタルハ地  
 名人名ヲ具シ時々内務省ヘ届出テ製造賣買ノ數量ハ別紙表圖ニ  
 準シ總計表ヲ製シ每半年七月同省ヘ届出テ



第九條 非常ノ際ニ當テハ内務卿ニ於テ火藥ノ製造賣買運搬等ヲ

停止スルヲ得ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

○議長 書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第二章 製造

第一條 火藥ヲ製造セントスル者ハ以下各條ニ從ヒ製造場ノ位置

構造方等ヲ詳記シ管廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

○第二條 火藥製造場ハ左ニ記シタル土地ニ於テハ設置ス可ラス

○第一 但周圍ニ丘陵河渠等アリテ危險ノ虞ナキモノハ必シモ此限ニ

拘ラサル可シ

第一三府并開港場市街内及其市街外ヨリ凡拾五町以内ノ地

一 人家稠密ノ町村内及其區域外ヨリ凡八町以内ノ地

○ 一 人家稀疎ノ地ハ其人家ヨリ凡二百間以内ノ地

一 往還道路ヨリ凡二百間以内ノ地

一 御陵墓及官國幣社區域外ヨリ凡八町以内ノ地

○ 一 陸海軍省所轄ノ火藥製造所及火藥庫牆壁外ヨリ凡八町以内ノ

地

第三條 火藥製造場ハ煉瓦石造リ又ハ石造塗家等ヲ以テ堅牢ニ構

造シ周圍ニ牆壁 高サ六尺以上ヲ設クヘシ

但人家遠隔ノ地ニ坑業需用ノ爲メ一時特許ヲ以テ製造スルモ

ノハ必シモ此限ニ拘ラサル可シ  
第四條 雷管製造場并火薬ノ量五貫目未満ヲ使用スル装弾及煙火  
製造場ハ何ノ地ヲ問ハズ人家ヨリ凡七間以上隔離スルニ非サレ  
ハ設置ス可ラス

第五條 五貫目以上五十貫目未満ノ火薬ヲ使用スル装弾及煙火製  
造場ハ何ノ地ヲ問ハズ人家ヨリ凡七拾間以上隔離スルニ非サレ  
ハ設置ス可ラス

第六條 火薬貯藏庫ハ製造場内ニ設クルモ妨ケナシト雖モ都テ第  
四章ノ制限ニ從フヘシ其類ノ他貯藏庫ハ西ノ内ニ設

第七條 製造ノ火薬ハ都テ免許商人ノ外他人ニ販賣ス可ラス  
但煙火ハ此限ニアラス

第八條 製造火薬ノ貯藏及販賣數量ハ月々増減表ヲ以テ警察署へ  
届出ヘシ

○二十番 佐野 常民 第三條ハ甚タ危険ナルヲ以テ本官等主下シテ之ヲ修

正セシモノナリ又火薬貯藏ノ如キモ頗ル學術上ニ關シ決シテ容易

ニ爲シ得ヘキモノニアラス故ニ西洋各國ニ於テモ之ヲ爲ス可極

テ慎重ナリト云ヘリ本官會テ舊藩ニ在リテ之ヲ取扱ヒシコアリ現

ニ白ニテ搗クノミニテモ幾多ノ手數ヲ要ス況ヤ其他ヲヤ然ルニ原

按ノ如ク其製造ヲ容易視シ之ヲ石造室中ニ貯藏スルカ如キ萬一破

裂ノ災ニ逢フハ之ヲ如何スヘキヤ是學術或ハ經驗上ニ依ラサル

ヘカラサル所以ナリ抑々内閣ニ於テモ此ノ如キハ充分協議ヲ悉サ

ルハ事ニ思ヒ茲ニ及ハサルヲ以テスレハ警視其他ニモ能ク此理由

ヲ解得スルモノ恐ラクハ少カラシク因テ本官等向日之ヲ痛論シ内閣  
モ亦已ニ原按ノ粗漏ナルヲ認知セラル、ニ至ル然ルニ忽チ其修正  
按ヲ廢棄シ斯ノ如キ不備危險ノ方法ヲ以テ人民ニ委任セントスル  
ハ保護ノ實何レニアリトナスヤ太々不安心ナルヲナリ故ニ本官ハ  
到底原按ヲ不可トス

○番山崎  
外直胤 抑々原按起草ノ時ト目下トハ已ニ其勢ヲ異ニシ修正

按ノ所謂私製禁止ノ法ハ大ニ其當ヲ得タルモノトス何トナレハ輓  
近陸軍省ニ於テハ火藥製造所ヲ上州岩鼻ニ設ケ海軍省モ亦二個ノ  
製造所ヲ設立スルニ内決セリ己ニ此ノ如クナルハ官用ノ剩餘ヲ  
以テ充分民間ノ需求ニ應スルノ料ヲ得ヘシ故ニ人民自カラ之カ製  
造所ヲ創設セントスルモ官用餘リアルノミナラス其剩餘ヲ人民ノ

需求ニ供スルハ勢ヒ之ト枯樺シテ製出スルモ其利ヲ収ムル能ハ  
ス縱令之ヲ許スモ亦許サ、ルト一般遂ニ其行フヲ得ヘカラサルヤ  
必セリ然レハ則チ今之ヲ禁スルモ肯テ妨ケナカルヘシ故ニ本員ハ  
惟ヘラテ原按起艸ノ時ト今日トハ其形勢已ニ同シカラサレハ再ヒ  
修正委員ヲ選ミ此情ヲ斟酌シテ更ニ之ヲ調査セラルニ於テハ太々  
可ナラントス

○廿三番柳原  
前光 内閣委員ノ辯明ハ頗ル分明ナラサルモ姑ク之ヲ論セ  
ス彼修正委員報告案ヲ廢棄シ原按ニ依テ議セント欲スルハ本官ノ  
陳述ニ係リ多數ノ同意者ヲ得テ已ニ之ヲ可トセリ然ル上ハ是本院  
ノ決議ナリ然ルニ再ヒ之ヲ回復セントスルハ諺ニ死兒ノ齡ヲ算ス  
ルト一般其何ノコタルヲ知ラス但此第三條ニ對シテ更ニ修正セシ

ト云フニ於テハ固ヨリ不可ナシト雖モ漫ニ既決ノ議ヲ復セントスルハ本官等ノ決テ領容スルヲ得サルヲタリ論者少シク猛省セヨ

○甘番佐野 本官ハ徹頭徹尾其不可ナルヲ信ス故ニ斷然之ヲ廢棄ス

ルヲ可トス河野 甘番ノ所論ハ太々奇異ト云ハサルヘカラス今日ハ是

○十二番河野 何ノ會ソヤ則チ第二讀會ニシテ本會ニ在テハ各條ニ就キ議決スヘ

キ例規ナラスヤ然ルヲ專ラ廢棄ヲ唱フルハ抑々何ノ意メヤ若シ各

條ニ廢棄ノ說アラハ之ヲ提出シ贊成者ヲ求メテ後興敗ヲ決シテ可

ナラン佐野 今廢案ト云シハ每條起立セスシテ一齊ニ決ヲ取ラント

○甘番佐野 今廢案ト云シハ每條起立セスシテ一齊ニ決ヲ取ラント

ノ意ナリ河野 甘番ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長 第三條ニ異議アレハ別ニ決ヲ取ルヘシ雷管 千餘

○甘番佐野 分別ヲ立テス前陳ノ如クセンコトヲ建議ス大藥 百餘

○議長 甘番ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ甘番ノ說ハ消滅シ本案ニ決ス雷管 百餘

書記官戸田 左ノ案ヲ朗讀ス

第三章 賣買

第一條 火藥賣買營業ヲナサント欲スル者ハ管廳ヘ願出免許商人

タルノ鑑札ヲ受ケ其店頭ニ標札ヲ掲クヘシ

第二條 第四條ニ記スル職業者ヲ除クノ外坑業其他職業用ノ火藥

ヲ買ント欲スル者ハ其時々使用ノ主意及數量ヲ詳記シ壹頁目未

滿ハ警察署へ壹貫目以上ハ管廳へ願出許可ヲ受ケ免許商人ニ就

キ其許可證ヲ示シ買取ル可シ

第三條 第四條ニ記シタル免許者ニ非スシテ演習等ノ爲メ免許銃

用火藥ヲ買ントスル者モ亦前條ノ手續ニ依ル警察署へ願出可シ其一回

買得ノ數量ハ每種左ノ程限ヲ超ユ可ラス

裝彈 百發

雷管 貳百粒

火藥 百目

雷管 千粒

○第四條 銃獵及鳥獸威シ銃室内射的營業烟火製造ノ免許者需用ノ

火藥ハ直ニ免許商人ニ就キ其銃獵免狀又ハ營業許可證等ヲ示シ

買取ル可シ得可シ其一回買得ノ數量ハ每種左ノ程限ヲ超ユ可ラ

○第五條 西洋形船艦設備ノ大砲小銃用火藥需用者ハ第二條ノ手

續ニ準ズ可シ

裝彈 千發

雷管 二千粒

火藥 壹貫目未滿

雷管 三萬粒

火藥 五貫目未滿

第六條 免許商人ハ買入示ス所ノ免狀又ハ許可證等ヲ確認シ前條

ノ數量程限ニ照ラシ賣渡スヘシ而シテ買入ノ姓名及數量日時

ヲ帳簿ニ詳記シ置月々警察署へ届出ヘシ

第七條 免許商人ト雖モ外國人ト火藥ヲ賣買セントスルトキハ其

時々管廳へ願出別段ノ免許ヲ受クヘシ

但銃獵免狀ヲ付與シタル外國人ノ其獵用ニ限り第四條ノ程限

ニ從ヒ直ニ賣渡スコヲ得ヘシ

第八條 免許商人販賣用火藥ト雖モ之ヲ買入ル、キハ都テ警察署

ノ認可ヲ受クヘシ

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官

戸田秋成

左ノ按ヲ朗讀ス

第四章 貯藏

第一條 火藥ヲ貯藏セントスル者ハ以下各條ニ從ヒ管廳へ願出許

可ヲ受クヘシ

但壹貫目未滿ノ火藥千發未滿ノ裝彈并雷管ハ此限ニ在ラスト

雖モ必ス倉庫内又ハ火氣遠隔ノ所ニ貯藏スヘシ

第二條 壹貫目以上五貫目未滿ノ火藥裝彈及烟火ハ其實量ハ何ノ

地ヲ間ハス人家ヨリ凡七間以上五貫目以上五拾貫目未滿ハ凡七

拾間以上隔離スル倉庫ニ非サレハ貯藏ス可ラス

但周圍ニ丘陵河渠等アリテ危險ノ慮ナキ地ハ必シモ此制限ニ

拘ラサルヘシ

第三條 五拾貫目以上ノ火藥貯藏庫ハ都テ第二章第二條ニ記シタ

ル土地外ニ於テ堅牢ニ構造シ周圍ニ牆壁高サ六尺以上ヲ設ケ必ス避雷針ヲ建ツヘシ

第四條 前條ノ火藥貯藏庫ハ其牆壁外凡ソ拾圓間以内ノ地ニ於テ外建物ヲ設ケ材本草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可ラス

第五條 人家遠隔ノ地ニ於テ一時ノ坑業等需用ノ爲メ特許ヲ得テ製造シ又ハ買入ル火藥ノ貯藏方ハ必シモ第三條第四條ノ制限ニ拘ハラサルヘシ

第六條 西洋形船艦設備ノ大砲小銃用火藥ノ貯藏方ハ都テ其船艦内ニ限ル可シ

但免許商人販賣用ハ此限ニ在ラス  
第七條 免許商人販賣用火藥ニ限り別段検査ヲ受ケ堅牢ノ倉庫ヲ

用ニルハ人家稠密ノ地ト雖モ貳拾貫目以下貯藏スルコトヲ許スヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立スヘシ  
起立者十八

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス  
書記官 戸田秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

第五章 運搬

第一條 五貫目以上ノ火藥裝彈及煙火ヲ運搬セントスルハ豫メ其數量及發着場所日時并ニ通過地名河海路ハ船積陸揚ノ地ヲ詳記シ警察署へ願出認可ヲ受ク可シ

但五貫目未満ハ此限ニ在ラスト雖モ必ス慎重ニ取扱フ可シ

第二條 運搬ノ火藥ハ桶又ハ箱ニ入レ晴雨ニ拘ラス桐油又ハ毛布  
 ノ類ヲ以テ其上ヲ覆ヒ且ツ火藥ノ二字ヲ書シタル小簇白地ヲ建  
 テ必ラス護送人ヲ附ス可シ  
 但水路運漕ニ方リ船積スルノ法ハ明治六年第二百九十二號布  
 告ニ從フ可シ

第三條 途中ハ都テ火氣ヲ警シメ若シ休息スルキハ人家ヨリ凡五  
 町以上隔テタル所ニ限ル可シ

第四條 烈風雷雨ニ方テハ已ムヲ得サル場合ノ外運搬ス可ラス

第五條 途中宿泊ヲ要スルトキハ人家稀疎ノ地ニ於テ相當ノ倉庫  
 ニ保藏シ夜中不寢番人ヲ附スヘシ

○四番福羽 美静 此第二條ニ修正ヲ加ヘントス其ハ前會ニ可決シテ今日

消滅スルモノ即チ且ツ下火藥ノ上ニ赤地ニ○三字ヲ加ヘ下ノ白  
 地黒字ノ四字ヲ削ル是レナリ

○十二番河野 敏録 賛成

○議長 四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 四番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ  
 起立者九人

○議長 多數ナルヲ以テ四番ノ修正説ニ決ス

書記官戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

第六章 罰科

第一條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ百日以上二年以下ノ懲役又ハ五十圓  
 以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ或ハ二罰併セ科シ尙其火藥及製造



器械ヲ沒收スヘシ

一官用ニ非スシテ軍用ノ火藥ヲ竊ニ製造スル者

一同上火藥ヲ竊ニ外國人ヨリ買入タル者

第二條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ四拾日以上一年以下ノ懲役又ハ貳拾

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ或ハ二罰併セ科シ尙其火藥及製造

器械ヲ沒收スヘシ

一官用ニ非スシテ軍用ノ火藥ヲ竊ニ賣買貯藏運搬スル者

一同上火藥ヲ竊ニ外國人ヘ賣渡シタル者

一免許ヲ得スシテ諸職業用火藥及免許銃用火藥ヲ製造スル者

一同上火藥ヲ竊ニ外國人ヨリ買入ル、者

第三條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ壹圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

一免許ヲ得スシテ諸職業用火藥及免許銃用火藥ヲ賣買貯藏運搬スル者

一同上火藥ヲ竊ニ外國人ヘ賣渡シタル者

一火藥買入ノ許可證ヲ再用シタル者

一本規則中別ニ罰則ナキ諸條ヲ犯シタル者

○議長 總計表ハ朗讀ヲ省ク仍テ本案並ニ表ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長 多數ナルヲ以テ原按ニ決シ第二讀會ハ爰ニ閉テ第三讀會ハ來三十一日ニ開クヘシ散會セヨ

午後第二時閉場



大正四年午前第十時三十分開場十一日

○第百三十三内閣委員番外太政官少書記官股野 琢

編輯 藤田 甘七番 河瀬 真孝

出陣編輯 甘六番 伊丹 重賢

甘三番 柳原 前光

甘一番 岩下 方平

二十番 佐野 常民

十九番 河田 景與

十五番 津田 眞道

十二番 河野 敏録

十一番 山口 尚芳

○議長 本日ハ第百三十七號議案第三讀會ヲ開ク議決ノ體ハ一章每

ニ決ヲ取リタル前例モアレハ之ニ準セントス各位例ニ遵ヒ發議ス

ヘシハ官ハ讀書員ニ讀ヲ亦スニ對人ニ其品モ審察スルハ其

果書記官戸田 秋成左ノ按テ朗讀ス爾ニ又爾軍機書等ニ至

テリ布告案ハ其旨ヲ宣ハシテ其旨ヲ明カニ其旨ヲ

火藥取締規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事ニ對シテハ

雖但此規則ニ矛盾スル從前ノ布告布達ハ都テ廢止トス

○甘番佐野 常民修正案ハ前會已ニ消滅シタルヲ以テ今復タ本按廢棄ノ

說ヲ持スルハ或ハ執拗固着ノ嘲ヲ受クヘシト雖也猶前議ヲ揭ケテ

其理由ヲ述ヘシ抑々反對論者ノ主トシテ彼修正案ヲ駁撃セシ所ノ

モハ政府專賣ノ不是ヲ鳴スニ在リ是レ理ナキノ說ニアラスト雖

厄斯ノ如キ危害品ノ製造ヲ保護スルハ政府ノ職トシテ爲サ、ル可  
ラサルモノタルハ本官ノ屢々陳述スル所ニシテ修正ノ主義タル決  
シテ專賣說ヲ主張スルニアラヌ乃チ人民保護ト社會便益トヲ企圖  
スルニアルノミ夫レ火藥爆發ノ害ハ之ヲ防カントスルヲ務ムルモ  
猶且其能ハサルニ苦シム故ニ此ノ如キ不充分ナル法案ヲ實行セハ  
政府ハ人民ノ保護ヲ計リテ却テ之ヲシテ禍害ニ陷ルヲシムルモノ  
ナリ然ハ則チ細密嚴肅ノ法ヲ設ケテ之ヲ豫防センカ決シテ其目的  
ヲ果ス能ハサルハ之ヲ歐洲諸邦ニ徵シテ明ナリ又國事犯者等ニ至  
リテハ官ノ製造所ト雖モ亦之ニ侵入シテ其品ヲ奪掠スルコトアレハ  
トテ民製ヲ禁スルモ決シテ其功益ナシト云フヘカラス且官物ハ奪  
ハスニハ得ヘカラス民有アラハ或ハ連合シテ製スルモ期スヘカラス

○ネ抑モ火藥ハ其製造後四五年ヲ經ハ必ス新陳交換セサルヘカラス  
○然ルニ厄スノ如ク幾多ノ製造ヲ許セハ陳々相積ミ遂ニ如何トモ爲ス  
ヘカラスナルニ至ラシク彼危害アリ此損立アリ而シテ畢竟其出費ニ供  
スルモノハ人民ノ膏血ナリ是自ヲ好シテ爲スモノト云フモ人民ハ  
其膏血ヲ絞ツテ以テ無用物ヲ製シ自ラ其疾苦ニ陷ルルヲ致スヲ豈  
政府ノ袖手傍觀スルニ忍ブルモノナラシヤ或ハ云フ官ノ敗壞ハ之  
ヲ賣リ民亦之ヲ製ス致テ不可ナシト然レ厄火藥ノ如キハ需用限り  
アリ他要用品ノ比ニ非ラヌ而シテ官ノ製造ハ往々人員ノ増減器械  
ノ差引アルモ其出入ヲ問ハサルニ由リ其價自ラ廉ナルヲ以テ買者  
幸ヲ受ケ稅爲ニ多キヲ加ヘス民亦間接ニ幸ヲ得ルアリ且積換敗壞  
等ハ免許商人ニ之ヲ扱ハシメ及ヒ其所有器械等現在政府ニ買上ク

ルモ亦不可ナカラシ然ルモハ政府人民ト利ヲ争フノ一難ニテ止マ  
シノミ文明國ノ政府專賣ヲ爲ス可ク獨リ火藥ニ止マラサルナリ硝  
石烟草等皆然ラサルハオシ仍テ火藥ハ政府之ヲ製シ人民之ヲ買フ  
一舉ニシテ兩益アラシ若シ其他物ヲ專賣ノ如キハ政府決シテ爲サ  
ルヲ保スヘシ到底本按ニハ纜カニ修正ヲ加フルモ敢テ其効能ア  
ルニ非サレハ寧ロ之ヲ廢棄シテ更ニ新案ヲ下付スヘキモノトス内  
閣委員ノ言ハ或ハ分明ヲ缺クニ似タリト雖モ到底修正説ニ同意ヲ  
表スルモノハ如シ故ニ本案ヲ廢棄シテ新案ヲ起スハ内閣ニ於テモ  
亦同意ナルヘシ是本官ガ熱心シテ廢棄ヲ唱フル所以ナリ出費ニ掛  
○五番秋月 種樹 賛成  
○十五番津田 眞道 賛成

○議長 廿番ノ本按廢棄説ハ賛成者員ニ滿テサルヲ以テ消滅シ更ニ  
本按ヲ可トスルモノハ起立スヘシ  
起立者十八人  
○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス可キ非テ其議決ニ  
書記官戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀ス  
火藥取締規則  
第一章 總則  
第一條 凡軍用ノ火藥裝彈雷管ハ官用ノ外製造又ハ賣買貯藏運搬  
第二條 左ニ記シタル火藥ハ此規則ニ從テ製造又ハ賣買貯藏運搬  
スルコトヲ許ス

一 鑛坑及道路開鑿其他職業又ハ烟火用

一 西洋形船艦設備ノ大砲小銃及免許銃用火藥裝彈雷管

第三條 火藥製造場及貯藏庫ハ管廳ニ於テ其障碍ナキヤ否ヲ取調ヘ之ヲ免許スヘシ

但製造場ハ每府縣各種拾ヶ所ヲ限トス若シ坑業等需用ノ爲メ豫メ其斤量ヲ定メ製造シ販賣ヲ要セサル火藥ハ尙此限外ニ於テ時々特許ヲ與フヘシ

第四條 火藥商人ハ管廳ニ於テ身元行狀ヲ取調ヘ其確實ナルヲ認メ之ヲ免許スヘシ

但每府縣拾五名ヲ限リトス

第五條 火藥五貫目以上運搬方ハ警察署ニ於テ之ヲ認可シ速ニ沿道ノ

警察署ニ報告スヘシ

第六條 火藥ノ製造場貯藏庫ハ警察官吏ニ於テ時々巡視スヘシ

第七條 開港開市場ニ於テ免許商人外國人ト火藥ノ賣買ヲ爲サント願出ルルハ管廳ニ於テ事實ヲ稽查シ五貫目以下ノ火藥并第三章第三條ニ記シタル程限内ノ裝彈雷管ハ直ニ之ヲ許可シ其他ハ

管廳又ハ警視局ヨリ内務卿ニ使用ノ事實ヲ具申シ其指令ヲ請フ可シ内務卿ハ其事狀ヲ稽查シ之ヲ許否スヘシ

第八條 府縣廳ニ於テ火藥製造場及火藥商人ヲ免許シタルハ地名人名ヲ具シ時々内務省ヘ届出テ製造賣買ノ數量ハ別紙表圖ニ準シ總計表ヲ製シ每半年七月同省ヘ届出可シ

第九條 非常ノ際ニ當テハ内務卿ニ於テ火藥ノ製造賣買運搬等ヲ

停止スルヲ得可シ

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立ス

○議長 起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

○五番秋月種樹 第二章第三條ニ就テ本官修正ヲ要スルコアリ仍テ別

ニ決ヲ取ラレシコヲ建言ス

○議長 五番ニ同意者ハ起立ス

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ五番ノ議ニ決ス

第六書記官戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第二章 製造

第一條 火藥ヲ製造セントスル者ハ以下各條ニ從ヒ製造場ノ位置

構造方等ヲ詳記シ管廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ク可シ

第二條 火藥製造場ハ左ニ記シタル土地ニ於テハ設置ス可ラス

但周圍ニ丘陵河渠等アリテ危險ノ虞ナキモハ必ズモ此限ニ

拘ラサル可シ

一 三府并開港場市街内及其市街外ヨリ凡拾五町以内ノ地

一 人家稠密ノ町村内及其區域外ヨリ凡八町以内ノ地

一 人家稀疎ノ地ハ其人家ヨリ凡二百間以内ノ地

一 往還道路ヨリ凡貳百間以内ノ地

一 御陵墓及官國幣社區域外ヨリ凡八町以内ノ地

一 陸海軍省所轄ノ火藥製造所及火藥庫牆壁外ヨリ凡八町以内ノ

地

第四條 雷管製造場并火薬少量五貫目未満ヲ使用スル装弾及烟火製造場ハ何ノ地ヲ間ハス人家ヨリ凡七間以上隔離スルニ非サレハ設置ス可ラス

第五條 五貫目以上五十貫目未満ノ火薬ヲ使用スル装弾及烟火製造場ハ何ノ地ヲ間ハス人家ヨリ凡七十間以上隔離スルニ非サレハ設置ス可ラス

第六條 火薬貯藏庫ハ製造場内ニ設クルモ妨ケナシ雖モ都府第二章ノ制限ニ從フヘシ  
第七條 製造ノ火薬ハ都府免許商人ノ外他人ニ販賣ス可ラス  
但烟火ハ此限ニアラス

第八條 製造火薬ノ貯藏及販賣數量ハ月々増減表ヲ以テ警察署ヘ届出可シ

○議長 原按ニ同意者ハ起立スヘシ  
○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

第三條 火薬製造場ハ煉化石造リ又ハ石造塗家等ヲ以テ堅牢ニ構造シ周圍ニ牆壁

但人家遠隔ノ地ニ於テ坑業需用ノ爲メ一時特許ヲ以テ製造ス可シ



○五番秋月種樹 本條ハ甚ダ漠然トシテ文意明瞭ナラス之ヲ讀ムニ恰モ雲ヲ捉ヘ天ニ上ルカ如ク危險甚シトス夫レ火藥ノ尤モ恐ルヘキハ爆發ナリ而シテ此患害ハ特ニ其製造所ニ起ルモノ多シ故ニ本官等初メテ此修正ヲ爲スニ當リ之ヲ歐洲ノ法度ニ取リ之ヲ我國ノ慣例ニ鑑ミタリシカレ強テ泰西文明諸邦ニ倣フヘカラサルモノアリ何トナレハ我國未タ學術ノ開ケサル經驗ノ尙ホ乏シキ加之其製造建築ノ多費ヲ要シ力足ラサルモノアレハナリ是政府專制ノ已ムヲ得サルニ發セシ說ナリ然ルニ是レ前ニ衆議ニ依テ廢セラレ今又二十番ノ原按廢棄說モ消滅ニ版ス故ニ縱ヒ完美ナルモノニアラスト爲スモ責メテハ此條ニ修正ヲ加ヘサルヘカラス例ヘハ製造所ヲ石造ニスト云カ如キハ良シヤ堅牢ナリトスルモ石ハ天性發火質ノモノ

ナルニ之ヲ火藥製造所ノ材料ニ用フルハ乃チ燈火又ハ火ツケヲ以テ之ニ入ラシムルト何ソ異ナランヤ故ニ内閣ニ於テハ必ス新按ヲ起シテ之ヲ改ムベシト雖モ現ニ本案ノ生活セシ土ハ之ガ修正ヲ企テサルヘカラス因テ本案煉瓦石以下堅牢ニ構造シ迄ノ二十一字ヲ削リ更ニ爆發ヲ嚴防シ内部ニ鑄釘等ヲ露ハサス石造ヲ用井ナルノ類且ノ二十七字ヲ填シ又ヲ設ク下ケ必ス避雷針ヲ建ツヘシト修正セントス

- 二十六番 伊丹重賢 賛成
- 九番 黒田清綱 賛成
- 六番 大久保一翁 賛成
- 八番 大輪恒 賛成
- 十二番 河野敏録 賛成

○議長 五番ノ修正説ハ五名ノ賛成者アルニ依リ問題トナス時已ニ

正午ニ及フ午餐後引續議事ヲ開クヘシ散會セヨ

午後零時七分閉場

○午後零時第三十五分開場

退席 二番 水本 成美

全 十一番 山口 尙芳

全 十五番 津田 眞道

全 二十番 佐野 常民

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○二十三番 柳原 前光 午前ニ於テ問題トナリタル五番ノ修正説ハ深切至

當ノ言ナルヲ以テ之ヲ賛成ス

○議長 五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ五番ノ修正説ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

第三章 賣買

第一條 火藥賣買營業ヲナサント欲スル者ハ管廳ヘ願出免許商人

タルノ鑑札ヲ受ケ其店頭ニ標札ヲ掲ク可シ

第二條 第四條ニ記スル職業者ヲ除クノ外坑業其他職業用ノ火藥

ヲ買ハント欲スル者ハ其時々使用ノ主意及數量ヲ詳記シ壹貫目

未滿ハ警察署ヘ壹貫目以上ハ管廳ヘ願出許可ヲ受ケ免許商人ニ

就其許可證ヲ示シ買取ル可シ

第三條 第四條ニ記シタル免許者ニ非スシテ演習等ノ爲メ免許銃  
常用火藥ヲ買ハントスル者モ亦前條ノ手續ニ依ル警察署可シ其一  
回買得ノ數量ハ每種左ノ程限ヲ超ユ可ラズ

第一類 火藥 雷管 裝彈 百發

第二類 雷管 貳百粒

第三類 火藥 百目

第四類 雷管 千粒

○銃具 室内銃用

第四條 銃獵及鳥獸威シ銃室内射的營業烟火製造ノ免許者需用ノ  
火藥ハ直ニ免許商人ニ就キ其銃獵免狀又ハ營業許可證等ヲ示シ  
買取ルコヲ得可シ其一回買得ノ數量ハ每種左ノ程限ヲ超ユ可ラ

第一類 裝彈 千發

○銃具 免許銃用 雷管 貳千粒

第二類 火藥 壹貫目未滿

第三類 雷管 三萬粒

第四類 室内銃用 火藥 五貫目未滿

第五條 西洋形船艦設備ノ大砲小銃用火藥需用ノキハ第二條ノ手

續ニ準ス可ク尤其數量ハ明治八年第九十八號布告ニ從フ可シ

第六條 免許商人ハ買人示ス所ノ免狀又ハ許可證等ヲ確認シ前條

條ノ數量程限ニ照ラシ賣渡スヘシ而シテ買人ノ姓名及數量日時  
ヲ帳簿ニ詳記シ置月々警察署ヘ届出ヘシ

第七條 免許商人ト雖モ外國人ト火藥ヲ賣買セントスルトキハ其

時々管廳へ願出別段ノ免許ヲ受クヘシ

但銃獵免狀ヲ付與シタル外國人ノ其獵用ニ限り第四條ノ程限

ニ從ヒ直ニ賣渡スコヲ得ヘシ

第八條 免許商人販賣用火藥ト雖モ之ヲ買入ル、モハ都テ警察署

ノ認可ヲ受クヘシ

○議長 各條異議ナキ者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ原按ニ決ス

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第四章 貯藏

第一條 火藥ヲ貯藏セントスル者ハ以下各條ニ從ヒ管廳へ願出許

可ヲ受クヘシ

但壹貫目未滿ノ火藥千發未滿ノ裝彈并雷管ハ此限ニ在ラスト

雖モ必ス倉庫内又ハ火氣遠隔ノ所ニ貯藏スヘシ

第二條 壹貫目以上五貫目未滿ノ火藥 裝彈及烟火ハ其實量ハ何ノ

地ヲ間ハス人家ヨリ凡七間以上五貫目以上五拾貫目未滿ハ凡七

拾間以上隔離スル倉庫ニ非サレハ貯藏ス可ラス

但周圍ニ丘陵河渠等アリテ危險ノ虞ナキ地ハ必シモ此制限ニ

拘ラサルヘシ

第三條 五拾貫目以上ノ火藥貯藏庫ハ都テ第二章第二條ニ記シタ

ル土地外ニ於テ堅牢ニ構造シ周圍ニ牆壁 高サ六尺以上ヲ設ケ必ス避雷

針ヲ建ツヘシ

第四條 前條ノ火藥貯藏庫ハ其牆壁外凡ソ拾四間以内ノ地ニ於テハ建物ヲ設ケ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可ラス

第五條 人家遠隔ノ地ニ於テ一時ノ坑業等需用ノ爲メ特許ヲ得テ製造シ又ハ買入ル、火藥ノ貯藏方ハ必シモ第三條第四條ノ制限ニ拘ハラサルヘシ

第六條 西洋形船艦設備ノ大砲小銃用火藥ノ貯藏方ハ都テ其船艦内ニ限ル可シ

但免許商人販賣用ハ此限ニ在ラス

第七條 免許商人販賣用火藥ニ限リ別段検査ヲ受ケ堅牢ノ倉庫ヲ用ユルハ人家稠密ノ地ト雖モ貳拾貫目以下貯藏スルコトヲ許

スヘシ

○十二番 河野敏 時機少ク後ルト雖モ前章ニ聊カ文字ノ修正ヲ加ヘン

トス即チ第三條中裝彈百發火藥百目トアリテ未滿ノ字ナシ然ルニ

第四條ニハ一貫目未滿五貫目未滿等ノ字ヲ見ル斯ク已ニ程限超ユ

○ヘカラサルヲ示セシモノナレハ未滿ノ二字ハ刪ルヲ可トス

○二十三番 柳原前光 賛成ス此ニ未滿ト云ヘハ彼ニ亦之ヲ加フヘキモノ

ナリ寧口之ヲ刪ルヲ至當トス

○一番 東久世通禧 賛成

○四番 福羽美靜 賛成

○十九番 河田泉與 賛成

○八番 大給恒 賛成

○議長十二番ノ修正説ハ賛成者員ニ滿ルヲ以テ問題ト爲シ之ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

○同番起立者十一人

○議長多數ナルヲ以テ前章ハ十二番ノ修正ニ決シ更ニ本章ノ各條ニ同意ノ者ハ起立ス可シ

○二十起立者十人

○議長多數ナルヲ以テ本按ニ決ス前ノ二章ハ議決ス可シ

○第五章ニ運搬

○第二條五貫目以上ノ火藥裝彈及烟火其實量ヲ算スヲ運搬セントスルハ豫メ其數量及發着場所日時并ニ通過地名河海路ハ船ヲ陸揚ノ地ヲ詳記シ警察

署へ願出認可ヲ受ク可シ

但五貫目未滿ハ此限ニ在ラズト雖モ必ス慎重ニ取扱フ可シ

第二條運搬ノ火藥ハ桶又ハ箱ニ入レ晴雨ニ拘ラス桐油又ハ毛布

ノ類ヲ以テ其上ヲ覆ヒ且ツ赤地ニ火藥ノ二字ヲ書シタル小旗ヲ

建テ必ラス護送人ヲ附ス可シ

但水路運漕ニ方リ船積スルノ法ハ明治六年第二百九拾二號布

告ニ從フ可シ

○第三條途中ハ都テ火氣ヲ警シメ若シ休息スルハ人家ヨリ凡五町以上隔テタル所ニ限ル可シ

○第四條烈風雷雨ニ方テハ已ムヲ得サル場合ノ外運搬ス可ラス

第五條途中宿泊ヲ要スルトキハ人家稀疎ノ地ニ於テ相當ノ倉庫

○保藏シ夜中不寐番人ヲ附スヘシ

○議長本按ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官戸田秋成左ノ按ヲ朗讀ス

第六章 罰科

第一條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ百日以上二年以下ノ懲役又ハ五十拾圓

以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ或ハ二罰併セ科シ尙其火藥及製造

器械ヲ沒收スヘシ

一官用ニ非スシテ軍用ノ火藥ヲ竊ニ製造スル者

一全上火藥ヲ竊ニ外國人ヨリ買入タル者

○第二條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ四十拾日以上一年以下ノ懲役又ハ貳拾

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ或ハ二罰併セ科シ尙其火藥及製造

器械ヲ沒收スヘシ

一官用ニ非スシテ軍用ノ火藥ヲ竊ニ賣買貯藏運搬スル者

一全上火藥ヲ竊ニ外國人ヘ賣渡シタル者

一免許ヲ得スシテ諸職業用火藥及免許銃用火藥ヲ製造スル者

一全上火藥ヲ竊ニ外國人ヨリ買入ル者

○第三條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ壹圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

一免許ヲ得スシテ諸職業用火藥及免許銃用火藥ヲ賣買貯藏運搬

スル者

一全上火藥ヲ竊ニ外國人ヘ賣渡シタル者

一 火藥買入ノ許可證ヲ再用シタル者

一本規則中別ニ罰則ナキ諸條ヲ犯シタル者

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス總計表ハ例ニ依リ朗讀ヲ省ク異

議ナキモノハ起立スヘシ

○議長 起立者十人

○議長 多數ナルニ依リ原按ニ決ス本日第三讀會ニ當リ決議セシ者

ハ本院確定シ議決トセントス同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十人

○議長 全體一致ナルニ依リ本按ニ確定シタル旨ヲ具シ例ニ從ヒ上

奏スヘシ散會セヨ

午後零時第五十五分開場



一、本報前期中、關於...  
 二、本報前期中、關於...  
 三、本報前期中、關於...  
 四、本報前期中、關於...  
 五、本報前期中、關於...  
 六、本報前期中、關於...  
 七、本報前期中、關於...  
 八、本報前期中、關於...  
 九、本報前期中、關於...  
 十、本報前期中、關於...

元老院會議筆記明治十二年五月七日

○第三百三十八號議案 東京上等裁判所管轄內檢視會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 東久世通禧 |
| 二番 | 水本 成美 |
| 三番 | 福羽 美靜 |
| 四番 | 秋月 種樹 |
| 五番 | 大久保一翁 |
| 六番 | 齋藤 利行 |
| 七番 | 大給 恒  |
| 八番 |       |

十一番	山口 尚芳
十二番	河野 敏鎌
十五番	津田 眞道
十七番	楠田 英世
十八番	津田 出
十九番	河田 景與
二十番	佐野 常民
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎
廿五番	田中不二磨
廿六番	伊丹 重賢

廿七番 河瀬 眞孝

午前第十時十二分開場

○議長 本日ハ第三百三十八號議案ノ檢視會ヲ開クニ依リ各員例ニ遵テ檢視ス可シト述フ

○書記官 戸田 秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス  
布告按

自今東京上等裁判所管轄内へ小笠原島被加候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ不備不明等ノ廉ナシト思考スル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立セルヲ以テ例ニ遵ヒ上奏スヘキ旨ヲ告ケ散會

セシム

午前第十時十五分開場

○議長 議長ナキモ以テ不備不周等々類々ニイ思テスル者ハ悉クモ  
自今東京上野館内へ小遊園地等開闢期到ル旨市書到ル

市書到

○書記官 書記官

マシメ

○議長 本日ハ議員二十八人出席シテ開會マシメ各員同ニ  
午前第十時十二分開場

廿二番

山口 尚芳

元老院會議筆記明治十二年六月十九日

○第三百二十九號議案 拷訊ニ關スル法令第一讀會

議長 熾仁  
親王

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 七番 齋藤 利行
- 八番 大給 恒
- 十一番 山口 尚芳

午前第九時三十五分開場

内閣委員番外 太政官少書記官小野 梓

十二番 河野 敏鎌

十五番 津田 眞道

十九番 河田 景與

二十番 佐野 常民

廿三番 柳原 前光

廿四番 細川潤次郎

廿五番 田中不二磨

廿七番 河瀬 眞孝

廿八番 前島 密

○議長 本日ハ第三百三十九號議案ノ第一讀會ヲ開クニ依リ各員例ニ遵テ發言スヘシト述フ

○書記官戸田秋成 左ノ布告案ヲ朗讀ス

布告案  
明治九年六月第八十六號布告改定律例第三百十八條改正爾後拷訊ハ全ク無用ニ屬シ候儀ニ付右ニ關スル法令ハ總テ刪除候條此旨布告候事

○番一外小野梓 本案ハ別段説明ヲ要セスト雖モ拷問ノ事タル大ニ亞細亞洲ノ体面ヲ汚シタルモノナレハ今月今日元老院ノ議定ニ於テ該惡法律ノ命脉ヲ絶チ太平洋中ニ沈没セシムルニ際シ紀念ノ爲メニ其履歷ト沿革トヲ陳述セントス抑拷訊ノ惡律タルハ言ヲ俟タス

之ヲ廢セント欲スルノ輿論ハ明治五六年ノ際ヨリ起リタリト雖モ  
改定律令第三百十八條ノ存スルアルヲ以テ未タ之ヲ廢スルヲ得サ  
リシナリ然ルニ内閣ニ於テハ明治八年七月ヲ以テ斷然之ヲ廢スル  
ニ決シ同月十五日ヲ以テ本院ノ議定ニ附セラレタルコアリキ本院  
又見ル所アリテ明治九年四月廿五日改定律例第三百十八條改正即  
チ斷罪依証云々ノ意見書ヲ奏上ス同時ニ於テ司法省モ亦同主旨ヲ  
上申ス而シテ本院奏上スル所ノモノヲ裁可セラレ同年九月廿五日第  
八十六號ヲ以テ公布セラレタリ且明治七年司法省第十九號布達以  
還各裁判所ニ於テ拷訊ヲ用ヒタルモノヲ調査スルニ七年ハ三十九  
八八年ハ三十一人九年ハ十三人十年ニ至テ一人モアルコナシ是レ  
○拷訊廢止ノ大法令ヲ發スルノ期會ニ達シタルナリ然ルニ本院唯拷

訊廢止トノミ書スルトキハ明治九年以來拷訊ハ用ヒサルコト思ヒ  
居タル内外人民モ仍ホ今日マテ用ヒタルカトノ思想ヲ喚起スルモ  
知ル可ラス仍テ改定律例第三百十八條改正爾後全ク無用ニ屬シ云  
々ト起草セシナリ前言贅ニ似タリト雖モ該惡法律ノ死スル今日ナ  
レハ紀念ノ爲メニ陳スルノミ  
○廿四番細川潤次郎 拷訊廢止ノコトハ此ノ如クナランコトヲ希望シタルヲ  
以テ本案ノ主旨ニ於テハ聊カ不同意ナルコナシ但文字上ニ就テ僅  
々タル修正說アリ他日第二讀會ニ於テ之ヲ提出シ立派ニ該惡法律  
ノ命脈ヲ絶タント欲ス  
○十二番河野敏錄 本案ハ固ヨリ同意ニシテ本官モ亦文字上ニ於テ修正  
說ヲ有ス内閣委員ハ内外人民モ拷訊ハ既ニ廢セラレタリト認メ又

明治十年以來一人ノ拷訊ヲ用ユルナシ云々ト謂フト雖モ本官ノ聞見スル所ハ之ニ異ナリ仍テ啗ニ表面ノミナラス實際ニ就テ一言ヲ陳セントス抑拷訊ノ事タル昔日之ヲ用ユルノ時ト雖モ實ニ之ヲ用ユルハ稀ニシテ罪人ヲ糺彈スルニ方リ唯拷訊ヲ用ユト揚言シ罪人ヲシテ恐怖甘結セシムルノミ又今日ト雖モ拷訊廢止ノ令ナキヲ以テ裁判官ハ實ニ其具ヲ用ヒサルモ辭ヲ拷訊ニ假托シ之ヲ糺彈スルモノ少ナカラス然ラハ其具ヲ用ヒサルモ何ソ之ヲ用ユルニ異ナラシ且現今各裁判所ノ景況ヲ見ルモ未タ拷訊ノ具ヲ除却セス既ニ一昨年西南ノ擾亂ニ際シ本官該地方ニ在テ犯罪人ヲ處分スルニ方リ拷訊ノ具ヲ要スルコアリ仍テ之ヲ借ランコヲ或裁判所ニ請フ或裁判所ハ需メニ應シテ速カニ之ヲ送附セリ是レ拷訊ノ未タ全ク廢セ

サルノ明証ナリ内閣委員ノ説明ノ如ク果シテ内外ノ人民既ニ拷訊ハ廢セラレタルモノト認メハ何ソ此布告ヲ出スヲ用シ此布告ヲ要スルハ即チ未タ全ク廢セラレタリト認メサル所以ナリ嗚呼此布告一出セハ今後裁判官ヲシテ罪人ヲ威スニ拷訊ヲ名トスルヲ得サラシムヘシ一日モ早ク公布アラントシテ希望ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ヲ閉ル旨ヲ告ク

○番一小野 第一讀會ノ訖リニ臨ミ建議スル所アラントス本案ハ外梓前會ニ於テ別ニ異議アルヲ聞カス因テ本日引續キ第二讀會ヲ開カレンコヲ請求ス

○議長 番外一番ノ建議ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十五人

○議長 多數同意者アルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク旨ヲ述フ

○書記官 戸田秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

布告按

明治九年<sup>六月</sup>第八拾六號布告改定律例第三百拾八條改正爾後拷訊ハ

全ク無用ニ屬シ候儀ニ付右ニ關スル法令ハ總テ刪除候條此旨布告

候事

○廿四番 細川潤次郎 前會ニ於テ既ニ陳述セル修正說ヲ提出セントス即

チ本案中爾後ノ爾ト全クノ全クトヲ刪除セント欲ス何トナレハ從

來ノ布告文ニ爾後ト用ヒタルヲ鮮ナシ又全クノ字ハ甚タ手強キ語

ニシテ一絲一毛モ之ヲ殘サスト云フ如シ若シ今日ヨリ明治九年ニ

濟ルキハ如何ナル思想ヲ起スヘキカ番外一番ノ說明ニ明治十年後

ハ一人モ拷訊ヲ用ヒスト云フモ其以前ハ之ヲ用ヒタリト云ハ、全

ク無用ト云フヘカラス又全クノ字ヲ存スルキハ明治九年第八拾六

號布告ノ後拷訊律ノ全部ハ之ヲ用ヒスト雖モ其半部ハ猶之ヲ用ヒ

タリト解スルノ嫌ヒアリ因テ此ノ如キ文字ヲ置テ異議ヲ生センヨ

リハ寧ロ之ヲ刪除スルニ如カサルナリ

○十二番 河野敏鎌 第一讀會ニ於テ述ヘタル本官ノ修正ノ意ハ廿四番ノ

修正ト同案ナルヲ以テ之ヲ賛成ス廿四番ノ說ノ如ク全クノ字ハ強

テ力ヲ添ヘタルカ如シ且是迄ノ法律半ハ無用ニ屬シタルニアラス

故ニ之ヲ刪ルヲ可トス

○議長 問題ト爲ス

○外番一小野梓 廿四番ノ修正說ハ文字ノ修正ニ止マルヲ以テ異議ア

ルヲナシ但廿四番ハ全クノ字ニカヲ添テ説カレタレト之ハ元ト輕キ意味ヲ以テ起草シタルナリ故ニ此旨ヲ辨解ス

○七番齋藤利行 本案文字上ニ就キ修正説ヲ提出セント欲スルニ方リ廿四番ノ修正アリ本官ノ思考ト粗相似タリ但本官ハ儀ノ字モ贅ナルヲ以テ之ヲモ刪ント欲ス然レト此一字ニヨリ異論ヲ起スヘキニモアラサレハ廿四番ノ修正ヲ賛成ス

○議長 廿四番ノ修正ヲ可トスル者ヲ起立セシム  
全員悉起立

○議長 全員悉ク起立セルヲ以テ該修正ニ決シ第二讀會ヲ閉ル旨ヲ告ク

○十二番河野敏雄 本官建議スル所アラントス目今他ニ下附セラレタル

議案數件アルニヨリ本案ハ更ニ第三讀會ヲ開カス本日第二讀會ノ決議ヲ以テ直ニ第三讀會ノ決議ト爲ハ可ナラン之ヲ衆議ニ問ハレシヲヲ冀望ス

○議長 十二番ノ建議ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者十四人

○議長 同意者多數ナルヲ以テ別ニ三讀會ヲ開カサル旨ヲ告ケ番外一番小野梓ヲシテ退席セシム

午前第十時二十分閉會更ニ第百三十六號議案第二讀會ノ續キヲ開ク



○ 議案の提出  
 ○ 議案の討論  
 ○ 議案の採決  
 ○ 議案の執行  
 ○ 議案の報告  
 ○ 議案の閉会  
 ○ 議案の再開  
 ○ 議案の延期  
 ○ 議案の中止  
 ○ 議案の取消  
 ○ 議案の保留  
 ○ 議案の撤回  
 ○ 議案の修正  
 ○ 議案の補充  
 ○ 議案の附帯  
 ○ 議案の併合  
 ○ 議案の分割  
 ○ 議案の譲渡  
 ○ 議案の譲受  
 ○ 議案の譲与  
 ○ 議案の譲渡  
 ○ 議案の譲受  
 ○ 議案の譲与

元老院會議筆記明治十二年五月八日

○ 第四百十號議案 電信條例第十七條刪除ノ布告案 第一讀會及第二讀會第三讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 東久世通禧 |
| 三番 | 伊集院兼寛 |
| 四番 | 福羽 美靜 |
| 五番 | 秋月 種樹 |
| 六番 | 大久保一翁 |
| 七番 | 齋藤 利行 |
| 八番 | 大給 恒  |

十一番	山口 尚芳
十二番	河野 敏鎌
十四番	中島 信行
十五番	津田 眞道
十六番	山田 顯義
十七番	楠田 英世
十八番	津田 出
十九番	河田 景與
廿番	佐野 常民
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎

○第百四十號議案  
 議案ノ理由ハ別ニ陳述スルヲ要セサレ各議官ニ於

○議長 本日ハ第百四拾號議案ノ第一讀會ヲ開クニ依リ各員例ニ遵  
 テ發言スヘシト述フ

○書記官 戸田 秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

○布告案  
 明治七年九月九十八號布告電信條例第十七條刪除候條此旨布告候  
 事ハ前ノ議案ニ依リテ議案ノ理由ハ別ニ陳述スルヲ要セサレ各議官ニ於

○外一番 小野 梓 本案ノ理由ハ別ニ陳述スルヲ要セサレ各議官ニ於

廿六番 伊丹 重賢

廿七番 河瀬 眞孝

内閣委員 番外 太政官少書記官 小野 梓

午前第十時開場

テ發議ノ便ヲ欠クヲ恐ル故ニ其手續キヲ簡單ニ說明セントス抑本案ハ前ニ元老院ノ檢視ニ附セラレタル電信條例第十七條改正云云ノ議案ヲ改正セシ者ナリ前日ノ檢視案ハ本院ニ於テ四ヶ條ヲ具シ該案ノ不備不明ナル所以ヲ通牒セラレタリ内閣ニ於テ猶之ヲ議スルニ該案ノ完全ナラサル且明治七年以來治罪法モ漸々進ミタルヲ以テ本案ノ如ク電信條例第十七條ヲ删除スルヲ決シタルナリ

○十二番 河野 敏錄 本案ハ内閣委員ノ說明ノ如ク曾テ本院ノ檢規ニ附セラレタル議按ヲ改正セシ者ナリ本官ハ該檢視ニ方リ大ニ議論ノアルアリト雖モ檢視ナルヲ以テ充分之カ可否ヲ論スルヲ得ス仍テ僅々其不備不明ナル所以ヲ論駁セリ而シテ各議官モ同意アリテ該案ハ不備不明ナリト決シ四ヶ條ヲ以テ其理由ヲ内閣ニ通牒セリ内閣

本院ノ通牒ニヨリ復タ本案ヲ下附セラレタルナリ前日ノ檢視ニ當リ欠席ノ議官モアルヘケレハ今書記官ヲシテ其通牒文ヲ朗讀セシメ各議官ニ示サレシヲ冀望ス

○議長 書記官ヲシテ通牒文ヲ朗讀セシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ通牒文ヲ朗讀ス

去月廿五日下午付ノ電信條例第十七條改正ノ儀布告案昨一日本院ノ檢視ニ於テ不明ナル者ト決定ス其理由ハ電信條例ニ掲クル所ノ諸罪ヲ犯ス者ハ即チ工部省ニ對シテ害ヲ與フル者ナレハ工部省ヲ認テ被害者ト爲サ、ルヘカラス而シテ本按ニ所謂告發ナル者ハ他人ヨリ訴フルノ謂ニシテ被害人自ラ訴フルノ謂ニ非ス司法警察假規則 明治九年三月本院檢 則視四月司法卿布達 第四條ニ之ヲ區別シ且注釋ヲ下シテ其義ヲ

明ニセリ然則工部ノ之ヲ檢事ニ訴フルハ告訴ト謂フヘクシテ告發ト謂フヘカラス是不明ノ其一ナリ又工部省ニテ取扱フノ權ヲ有ストハ工部獨リ其權ヲ專有シ他ハ肯テ其權ヲ有セサル者カ是不明ノ其二ナリ假ニ工部ノ專權ニ皈スルトスルモ司法警察假規則ニ由ルニハ犯罪ノ告訴告發ハ官吏人民ノ差違ヲ立テス摠テ之ヲ爲スコヲ得檢事モ亦其官吏ト人民トヲ問ハス摠テ之ヲ受ルコトヲ得然ラハ何ソ必スシモ工部ノ專權ニ歸スルヲ用ヒンヤ是不明ノ其三ナリ蓋シ電信ノ事タル技術ニ關スルヲ以テ當該ノ官吏ニ非サレハ犯罪ノ形狀ヲ詳ニスルコ能ハサル者トスルカ柱木信線等ヲ毀傷シ或ハ一切ノ物品ニ獸畜ヲ繫キ或ハ瓦礫ヲ投擲シ或ハ紙鳶ヲ引掛ルカ如キ當該官吏ニ非スト雖敢テ視察シ能ハサル者ニ非ス或ハ罪ノ輕重ヲ度

ルコ能ハサル者トスルカ其種類ニ依リ罰金禁獄懲役各其多寡長短ヲ詳ニセリ亦何ソ當該官吏ノ言ヲ煩スヲ用ヒンヤ是不明ノ其四ナリ且吾國ノ法律中此條例ニ類スル者大畧貳拾有餘アリ而シテ一モ此ノ如キ條款ヲ掲クル者ヲ見ス唯鐵道畧則ノミ之ニ類スル條款アリト雖該則ハ司法警察假規則未定以前ニ在ルヲ以テ引証スヘキ者ニ非サルナリ右等ノ理由ナルヲ以テ本按ハ改正ヲ求ムヘキニ決ス依テ此段及御通牒候也

明治十二年四月二日

議長熾仁親王

太政大臣三條實美殿

○廿四番

細川潤次郎

本官ハ檢視會ニ於テ該案ノ不明ヲ陳述セル議官ノ贊成者ナリ若シ前案ヲシテ檢視ニアラサラシメハ本按ノ如キ修正

ノ説ヲ提出セシナラン但檢視條例ニ局セラレテ發論スルヲ得サリ  
○シナリ仍テ更ニ内閣ヨリ下附セラレタル本案ハ満足ナルモノト謂  
フヘシ

○十四番 中島 信行 既ニ第一讀會ノ訖リニ臨ミタレハ本官ハ別段ノ建議  
ヲ爲サント欲ス本案ハ各議官ニ於テ格別議論モナク且他ニ教育令  
ノ如キ緊要ナル議案モアレハ本日引續キ第二讀會ヲ開カレンコトヲ  
希望ス

○十二番 河野 敏 賛成

○議長 十四番ノ建議ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
全員悉起立

○議長 全員悉ク同意ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク旨ヲ述フ

○書記官 戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治七年九月第九十八號布告電信條例第十七條刪除候條此旨布告候  
事

○番一 小野 粹 十四番ノ建議ニヨリ引續キ第二讀會ヲ開カレシハ委  
員ニ於テ満足セリ又本按ニ付テハ最早説明ヲ要スヘキ者ナシ因テ  
沈黙ノ自由ヲ守ラントス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム  
全員悉起立

○議長 全員悉ク可トセルヲ以テ第二讀會ヲ閉ル旨ヲ告ク

○十二番 河野 敏 本官建議スル處アラントス本案ハ第二讀會ニ於テモ

異議ナキヲ以テ猶引續キ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ム

○八番 大給 恒 賛成

○議長 十二番ノ建議ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク同意ナルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開ク旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治七年九月第九十八號布告電信條例第十七條刪除候條此旨布告候

事

○議長 發議ナキヲ以テ確定ノ決ヲ取ントシ本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トセルヲ以テ第三讀會ヲ閉チ且第四百一十一號議案ハ都合ニヨリ延會スル旨ヲ告ケ散會セシム

午前第十時十五分開場

元老院會議筆記明治十三年五月十四日之書屋會本週三輯

○第四百十一號議按虎列刺病傳染第一讀會

議長 熾仁

出席議員廿六番

東久世通禧

福羽 美靜

秋月 種樹

大久保一翁

齋藤 利行

大給 三恒

山口 尙芳

十一番

山口 尙芳

衛生部







第五條 著船ノ船員船長暨員士官等ハ勉テ檢疫吏ノ事務ヲ施行スルノ便

宜ヲ得セシムヘシ

其船舶ノ日記、船員船客人名簿、醫員報告、物貨品目簿等ヲ示シ其諸簿ト關涉スル所ノ人及ヒ物品ヲ照査スル等都テ檢疫吏ノ請求ニ應スヘシ

第六條 此規則ヲ施行スルタメ入港ノ船舶ヲ分テ左ノ種類トス

第一種 無病港ヨリ來着シ航海中曾テ疑ハシキ船舶ニ接シタル船舶ナク且ツ船内更ニ虎列刺病患者ナキ者

第二種 船内更ニ虎列刺ニ感染セシモノナシト雖モ有病ノ港ヨリ來ルモノ若クハ疑ハシキ船ニ接シタル者

第三種 到着ノ現時或ハ其後ニ於テ感染セシ者ナキモ船中曾テ

虎列刺患者アリシ者

第四種 船内現ニ虎列刺ニ感染セシモノアル者

第三第四ニ屬スル船舶ハ其出發シタル港ノ有病無病ヲ審問スルヲ要セス

第七條 前條ノ種類ニ隨テ船舶ヲ取扱フ方法左ノ如シ

第一種 此種ニ屬スル船舶ハ一定ノ場所ニ停止シ檢疫吏ノ認可

ヲ得港外ニ投錨セス直ニ入港スルヲ得

第二種 此種ニ屬スル船舶ハ一定ノ場所ニ停止シ檢疫吏ノ檢査

ヲ受ケ船内衛生法ノ充分ナルヲ證明シテ後入港スルヲ得

但時宜ニヨリ其豫防法ヲ行フト行ハサルト並ニ其法ヲ寬ニスルト嚴ニスルトハ都テ檢疫吏ノ指示ニ依ルヘシ

第三種 此種ニ屬スル船舶ハ檢疫吏ノ指示スル場所ニ投錨シ該吏ノ指示スル豫防法ヲ施行スルノ後入港スルヲ得

但其豫防法ハ患者ノ多寡病症ノ輕重發病後時日ノ長短及ヒ

既ニ船中ニ施行シタル消毒法ノ如何ニ由テ斟酌スヘシ

第四種 此種ニ屬スル船舶ハ檢疫吏ノ指示スル場所ニ投錨シ船

ノ進退並ニ患者及ヒ死者ノ處分等左ノ法ニ準據スヘシ

〔イ〕死體ハ海港檢疫吏ノ指示スル方法及ヒ場所ニ於テ適當ノ消毒法ヲ行ヒ然シテ後之ヲ埋葬スヘシ

〔ロ〕虎列刺患者ハ特ニ設ケタル病院ニ移轉スヘシ

〔ハ〕檢疫醫員ニ於テ虎列刺病ノ前兆ヲ有スルト疑フ者ハ速ニ

類似症患者ノ爲メニ設クル病舎或ハ他ノ病院ニ送致スヘシ

〔ニ〕檢疫醫員ニ於テ虎列刺ニ罹ル患者ノ容体危篤ニシテ他所

ニ移轉シ難シト認ムルモノハ之ヲ船中ニ留メ置クヘシ且該船

ノ進退預防ノ方法ハ檢疫吏ノ指揮ニ依ル可シ

〔ホ〕可ハビノ三條ニ準據シ留止セシムル所ノ患者ハ檢疫醫員

ノ健全証書ヲ得ルニアラサレハ他ニ發程スルヲ得ス

〔ヘ〕患者自ラ信任スル所ノ醫員ノ來診ヲ請求スルヲ得而テ醫

員ニ非ラサル人ニシテ患者ニ接見セントスル者ハ檢疫醫ノ許

可ヲ受ケテ該醫ノ指示スル豫防法其他條規ヲ遵守セサル可ラ

ス

〔ト〕患者ハ病院ノ費用則チ食料看護料診察料藥料及ヒ雜費

等檢疫吏ノ定ムル所ニ隨テ自辨ス可シ

(チ) 船中人員(虎列刺病ニ感染セサルモノ) 上陸スルル或ハ陸  
 上ノ人ト交接スルル豫メ消毒法ヲ行フ可シ  
 (リ) 船員船客ニ屬スル衣服寢具雜具ニ消毒法ヲ施行ス可シ  
 患者ニ屬スル前記ノ物品ハ檢疫吏ノ見込ニヨリ之ヲ燒棄セシ  
 ムルヲアルベシ  
 (ヌ) 船中搭載スル物品其質傳染ノ媒介タル恐アル者(襪履或ハ  
 古着類ノ如シ) 或ハ其染毒品ト相觸タル者ハ檢疫吏時宜ニヨ  
 リ消毒法ヲ命シ或ハ之ヲ燒棄セシムルヲアルベシ  
 (ル) 入港前檢疫吏ノ指示ニ依リ船中總員及ヒ船中各部ニ向テ  
 更ニ消毒法ヲ施行スベシ  
 第八條 消毒法ノ施行ハ検査後遅クモ二十四時間ニ完了スベ

不但シ疾風暴雨等非常不得已ノ際ハ此限ニアラス且ツ消毒法ヲ  
 施行スルニ於テ適當ニ支消シタル現費ハ該船ヲ負擔スベシ  
 第九條 軍艦ヲ第七條ノ種類ニ區別スルハ艦長及ヒ醫官ノ陳述ニ  
 準據ス  
 檢疫吏ノ請求アルルハ其陳述スル所ヲ筆記署名シ之ヲ付與スヘ  
 シ  
 第一種第二種ニ屬スル軍艦ハ艦長病毒滋蔓ヲ防遏スル充分ノ豫  
 備ヲナスヘク承諾スルルハ港外ニ投錨セスシテ直ニ入港スルヲ  
 得  
 第三種第四種ニ屬スル軍艦ノ停止スル所ハ檢疫吏ノ指示ニ依ル

ヘシト雖モ其施行スヘキ消毒豫防ノ方法ハ總テ檢疫吏該艦ノ醫員ト協議決定スヘシ尤檢疫吏ハ其決定セル方法ヲ實施シタルヤ否ヲ更ニ検査スルヲ得

但シ此消毒豫防法ヲ行フノ以前該艦モシ他ノ船舶ニ直接ノ交通ヲ要スルトハ先ツ衛生官ヲ満足セシムヘキ豫防法ヲ施シ然ル後交通スヘシ

第十條 郵便物ハ臨時適宜ノ方法ヲ以テ疾速ニ陸揚スルヲ得セシム

第十一條 第三種第四種ニ屬スル船舶ニシテ移住人民或ハ夥多ノ下等客ヲ載スルモノ等ヘ衛生上非常ノ危害ヲ爲スヘキ恐レアリト認ムル船舶ハ臨時檢疫吏ニ於テ七日ヲ過キサル停船ト嚴重ナ

此ル豫防法トヲ命スルコアルヘシ

檢疫吏ハ其停船ヲ命セシ理由既ニ施行セシ處分將ニ施設セントスル方法ヲ衛生局ニ報告スヘシ且此報告ハ其船長船主或ハ代理人其他此事ニ關係アル者ヨリ請求スルハ檢疫吏ハ其寫ヲ授與スルコアルヘシ

第十二條 各船舶現時此規則ヲ實施スル海港ヲ發スルハ檢疫吏其發程ノ時船舶衛生上ノ景況ヲ記載シタル證書ヲ付與スヘシ而シテ該船日本諸港ヲ經過スルニ當テ檢疫吏ノ要求ニ應シ該證書ヲ示スヘシ

第十三條 此規則ニ準據シテ事務ヲ施行スルニ由リ損害ヲ蒙リタル者檢疫吏及ヒ其他ニ向テ要償スルノ權ナシ

第十四條 此規則及ヒ此規則ニ憑據シテ公告スル所ノ規則ヲ犯ス

ルハ各犯百圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科スヘシ

○番小野 各議官ノ發言ニ先タチ本按起艸ノ主意及ヒ其沿革ノ

大略ヲ陳セン抑々傳染病ノ豫防セサルヘカラサルハ各國共ニ然リ

特ニ本邦ノ如キ熱温帶ノ間ニ位セル國ニ在テハ其傳播ノ勢最モ甚

シ故ニ太政官及ヒ内務省等ヨリ屢々令ヲ下シテ之ヲ防クニ意ヲ注

ト雖モ未タ其疫毒ヲ禦クノ法ナシ是ヲ以テ昨年ニ至リ政府ハ十年

ノ慘毒ヲ顧ミ防禦法調査ノ爲メニ内外人ヲ集メテ委員ト爲シ森外

務大輔ヲ以テ之カ長トナシテ研究アリシニ傳染病中虎列刺毒ヲ以

テ最劇シキモノトスルニヨリ其規則中ニ停船法ノコトヲ掲ケテ具申

セリ然レモ内務省ノ副申ニ停船法ハ實際差支ノ廉アルヲ以テ單ニ

檢疫法ノミヲ施行セント云リ内閣亦彼是ヲ參酌シ利害ヲ討議シ遂

ニ檢疫法ヲ取リテ茲ニ本案ヲ成スニ至レリ蓋シ檢疫及停船二法ノ

利弊得喪ヲ略說センニ抑々衛生ヲ主トシテ交際ヲモ省ミストスル

ハ惡疫流行ノ間ハ外交モ之ヲ絶タサルヲ得ス進ンテ之ヲ極言スレ

ハ感染者モ之ヲ殺サ、ルヘカラサルニ至ラン是豈人情ノ堪ル所ナ

ラシヤ然レモ今停船ノ法ヲ主張スレハ推究此極點ニ達セサルヲ得

ス加之停船法ノ施行ハ音ニ各港其他ノ煩ヲナスノミナラス隨々巨

多ノ費用ヲ要シ商職ノ自由ヲ妨ケ内外ノ損害亦勝計スヘカラス特

ニ此利害ハ外國人ニ關スルヲ以テ之カ談判ヲ爲スニ困難ナルハ言

ヲ談タスシテ實地或ハ行ハレサルヲ憂フルモノアリ曾テ維也納ニ

會議モテモ停船法ハ八箇ノ弊害アルコトヲ極論シ米佛諸邦ハ皆之ヲ

非ナリトシ獨リ檢疫法ノミヲ施行セリ蓋シ檢疫法ハ他人疾アルヲ知ラスシテ交通スルニヨリ衛生上往々其害アリト云フト雖モ之ヲ實例ニ徵スルニ西曆千八百七十三年米國紐育府ニ該法ヲ施行セシ時ニ方リ有病地方ヨリ來港ノ船舶四百隻乗客十五萬人ノ多キカ中ニ患者纒ニ十六人アリシフミト云ヘリ是ニ由テ之ヲ推セハ海外齋來ノ病毒ハ甚々稀少ナルヲ知ルヘシ而シテ其費用ノ損失ヲ較スルヤ頃且内務省ノ預算調査ニ依ルニ檢疫法ハ三萬三千九百餘圓ニシテ停船法ハ九萬八千七百餘圓ヲ要スト是レ幾ト三倍ノ費用ヲ要シ而シテ其奏功ヲ問ヘハ敢テ大差アルニアラス知ルヘシ得失ノ相償ナハサルヲ況ヤ停船法ヲ設クト雖モ法外ノ密賣買ヨリ傳染以テ憂ヲ引クカ如キハ尙ホ止マサルニ於テヲ望ラクハ社會交通ノ利害

ト衛生上ノ得失如何ヲ實地ニ熟察シ以テ充分ノ議定アラントヲ  
○議長 發議ナキヲ以テ第一讀會ヲ閉チ來ル十九日第二讀會ヲ開カ  
ン散會ス可シ

午前第十時二十七分閉場

元老院會議筆記明治十二年五月十九日  
 第一讀會  
 議長 親王  
 出席議員  
 一番 東久世通禧  
 二番 水本 成美  
 三番 伊集院兼寛  
 四番 福羽 美静  
 五番 秋月 種樹  
 六番 大久保 一翁  
 七番 齋藤 利行

元老院會議筆記明治十二年五月十九日  
 ○第四百一十一號議按 虎列刺病傳染豫 第二讀會  
 議長 親王  
 出席議員  
 一番 東久世通禧  
 二番 水本 成美  
 三番 伊集院兼寛  
 四番 福羽 美静  
 五番 秋月 種樹  
 六番 大久保 一翁  
 七番 齋藤 利行





虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

○二十番

佐野常民

内閣委員ニ質問セメトス蓋本案ハ内國ノ惡疫豫防ニ止マルモノニアラス則チ外國ノ軍艦商船ニモ普及スルノ法案ナラシ想フニ衛生ヲ重シ惡病ヲ防タ爲メニハ彼レモ亦之ヲ拒ム理ナカ  
ルヘシト雖モ商船ハ損得アリ軍艦ハ權限アリ且爲メニ時間ヲ滯止  
スルヨリ費用モ亦多シ知ラス是レ已ニ各國公使ニモ照會シテ設ケ  
ラレシヤ又之ヲ告ケサルモ諸公使ニハ不服ナキヤ彼ノ香港ノ如キ  
ハ英領ナリ而シテ本邦ト來往尤モ繁シ是等已ニ調査セシヤ其手續  
如何

○一番

小野粹

驚クヘキ質問ナルカチ其要領ヲ摘ムニ本按ハ外交ニ關スルユヘニ各國公使ニ照會セシヤ香ヤノ點ニアルカ如シ斯ル言

ノ發スルヤ獨立國タル日本ニ於テハ甚タ不祥ト云ハサルヲ得ス日

本ノ法ハ日本ニ行フヘキノミ香港ノ調査等ハ此問題ニ非ラサラン

○廿番

佐野常民

日本ノ法ト雖モ外國ニ關スルモノ少カラス而シテ其方

法ニ依テハ外國人ノ之ニ遵フト否ヲサルトアリ甚キニ至テハ一

法ノ爲ニ爭論葛藤ヲ生スルモノアリ抑々最初ヨリ協議セサレハ止

ム若シ協議シタラハ其行ハルト否トハ注意セサルヲ得ス本按ヲ

見ルニ外國人ヲシテ之ヲ遵奉セシムルノ明文ナシ是レ本官カ疑ヲ

起ス所以ナリ決シテ本邦ノ立法ハ悉皆必ス外國ニ協議スヘシト云

○外一番

小野粹

質議ノ主點始テ了解セリ是レ固ヨリ内外ノ關涉アルヲ以テ已ニ辨明セシ如ク外國人ヲモ交ヘテ起草セリ故ニ未タ各國

公使へハ協議ヲ悉サレテ斷シテ之ヲ行フノ意見ニテ本院ノ議定

○二附シタルナリ生提議ニ對スルニ驚ノ嘆詞ヲ以

○十一番山口 番外一 番ハ廿番議官ノ質議ニ對スルニ驚ノ嘆詞ヲ以

テセリ本官ハ却テ番外一 番ノ驚キシヲ驚クナリ夫レ本按フ外交ニ

關スルハ言ヲ俟タス苟モ議法ヲ任ニアル者ハ注意此ニ至ラサル可

ラス夫レ外國トノ關係ハ彼我條約書ニ據ラサルヲ得ス加之本案ノ

末條ニ罰金ノ事アリ此裁判ハ何人カ之ヲ爲スヤ廿番ノ焦慮ハ想フ

ニ此等ニ因ルナラシ番外一 番ハ何ヲカ驚キタルヤ本官ハ其驚キタ

○ル所以ヲ聞カント欲ス擬テ快因ニ關スルハル所以ヲ聞カント欲ス

○外一 番小野 十一番議官質問ノ點ハ那邊ニアルヤ解シ難シ再ヒ詳

陳アラシト望ム日本陳アラシト望ム

○十一番山口 廿番ハ本案ハ外交ニ關スルニヨリ各國公使ニ協議セ

シヤ否ヲ問ヒシニ番外一 番ハ斷シテ之ヲ行フノ意見ナリト答ヘタ

リ然ルニ案中反則罰金等ノ事アリ若シ本院ノ議定ヲ經シ後ニ障碍

○アリテ行ハレサルコトアレハ國權ニ關スル亦少ナカラサルヘシ委員

ハ何ノ意見アリテ之ヲ處セントスルヤ

○外一 番小野 再應ノ言尙ホ十分ニ了解シ得スト雖モ推想スルニ其

主點ハ内閣委員ハ外國トノ條約アルヲ知ラスト云フモノ、如シ本

員不敏ト雖モ乏ヲ内閣ニ承ク豈ニ之ヲ知ラサランヤ然レ本按ノ

如キモノハ議定ノ後ニ非ラサレハ談判ヲ遂クルヲ得ス故ニ其方略

ハ後日ニアルヘシ今日ニ於テ之ヲ是非スルハ豈大早計ナラスヤ

○十一番山口 異ナル哉辯明ヤ一旦議定シタル後萬一外國人ノ妨碍

ニ逢ヒ之ヲ行フヲ得サル眞ニ是レ國辱ナリ本案末條ニ犯則罰金云々ノ語アリ本邦未タ外人ヲ處刑スルノ約ナシ此權衡ヲ執テ裁判ス果シテ誰カ之ヲ爲スヤ是等權限ニ就テハ數年間朝野ノ大論題トナリテ外國人ト爭フコトモ亦多シ而シテ本按ハ當ニ本邦人ニ施行スルニ止ラス勢外國人ニ關スルモノナレハ豈豫メ之ニ協議セサルヲ得ンヤ之ヲ協議スルハ決シテ耻ルトコトヲアラサズ本官ハ却テ番外一番カ日本帝國ノ權利ヲ知ラサルニ驚タナリ

○甘番佐野常民 本按ヲ斷行セハ獨リ内外商船ニ止マラス必ス軍艦ニモ及ホサ、ルヲ得ス船艦ヲ止ルヤ先ツ其進入ヲ制シ其碇泊所ヲ指定セサル可ラス之ヲ爲スノ手續ハ如何ナル方法ヲ以テスルヤ若シ夫レ本案ノ行否ハ議定ノ後ニアリト云ハ、本官等ノ用意モ亦然ヲサ

ルヲ得ス番外一番ハ初メハ斷シテ行フト云ヒ後ニハ決議ノ後外國人ニ協議スト云フ謂フ兩者必ス一ニ居レ

○番一小野粹 箇ハ無用ナル質議ト思ヘ正間アレハ又答ヘサルヲ得ス元來日本ノ法ヲ行フハ日本ニ在リ本按決シテ約ニ外國ニ違フトナシ十一番甘番ノ兩議官ハ老婆心ヲ以テ豫メ外國公使ニ協議セヨト云フ畢竟杞憂ノ甚シキモノナラスヤ本員ハ已ニ第一讀會ニ於テ其沿革ヲ舉ケテ説明セリ能ク之ヲ熟考セハ思半ニ過ルナル可シ

○八番大給恒 本官ハ建議スル所アリ本按ノ急施ヲ要スルハ各位悉ク同意ナルヘシト信スレ正此事タルヤ外交ニ關スルコト少ナカラサレハ亦精密ニ調査セサルヲ得ス本官會テ外國人ノ調査ニ係ル草案ヲ見シニ立意本按ニ勝レルモノ多シト認ム故ニ附托委員ヲ撰テ之ヲ

折衷シ以テ修正セシコトヲ欲ス

○廿番佐野 本按ハ内外ニ關係スル重大ノ件ナレハ實ニ八番ノ建議

ノ如ク投票若クハ議長ノ意見ヲ以テ委員ヲ撰ミ精細調査ヲ遂ケ更

ニ議定ニ附センコトヲ欲ス内閣委員ノ辯明ハ未タ其意ヲ得サルモノ

アリ仍テ八番ヲ賛成ス

○十二番河野 本按ハ第一讀會ニ方リ内閣委員ノ説明アリシ時ニハ

一議モ出テスシテ本日ニ至リ突然質議ト云ヒ建議ト云ヒ彼我相驚

ク等ノ紛擾ヲ生シ夫ニ時間ヲ徒費セリ本官ハ之ヲ繁難ノ案ト思量

セス若シ各議員異見アルアリテ本按ヲ不可トセハ廢棄スルモ隨意

タルヘシ豈八番ノ建議ヲ要センヤ例ニ依リ逐條會議ヲ開テ可ナリ

○十一番山口 無用

○議長 十一番ハ其無用トスルノ理由ヲ述フヘシ

○十一番山口 已ニ建議者アリ尋テ賛成者アリ議長未タ之ヲ問題ト

セサルニ先タチテ發議ス故ニ無用ト云フ

○議長 十二番ハ其無用ナラサル理由ヲ述フヘシ

○十二番河野 問題前ト雖モ發論ノ趣旨異同アルニ遇ヒ自説ヲ述フ

ルハ是レ議場ノ慣例ナリ故ニ已ニ賛成アル八番ノ建議ニ不同意ヲ

述ルモ亦無用ナラスト信ス然レ是レ本官ノ意見ノミ果シテ其無用

ナルヤ否ハ之ヲ衆議ニ決セラル可シ

○十一番山口 斯ル發議法ハ慣例ナルヤ否ヤ本官ハ之ヲ知ラスト雖

モ問題後ニ異同ヲ述フルモ決シテ妨ケストス

○十二番河野 十一番ハ誤レリ建議ニシテ問題トナリシコト從來之ア

○ルコナシ且一建議アリ之ニ不同意アルモ默シテ言ハヌシハ恰モ是ニ同意ナルカ如シ故ニ其意見ヲ述フルハ決シテ妨ケナカルヘシ

○十一番 山口 尙勞 斯ル慣例ナリトセハ本官ノ無用ト云ヒシハ取消レンコヲ乞フ

○議長 十一番ノ十二番ノ發議ヲ無用ト云ヒシハ之ヲ取消ス其理由

○十二番 河野 敏録 然ラハ前議ヲ繼述セン本案ハ大ニ繁難ナリトセヌ若シ逐條議ニ方リテ難疑アリトセハ爾時之ヲ委員ニ附シテ修正スル

○モ不可ナシ又外交條約ニ向テハ格別關係ナシト思量ス己ニ水先免狀等ノ規則ニモ罰則ヲ掲ケシ例アルニアラスヤ仍テ本官ハ此等ノ論ハ廢却シ全ク第二讀會ノ性質ヲ以テ逐條討論ヲ爲サンコヲ望ム

○議長 八番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ建議ハ消滅ス

○廿四番 細川 潤次郎 逐條議ニ先ツテ本官ハ聊カ修正ヲ要ムル所アリ即チ本案ノ題號ナル虎列刺病傳染豫防規則是レナリ是ニ由テ見ルル

ハ本案ハ虎列刺病ノミニ限ルト解セサルヲ得ス然レハ他ニ傳染病ナル者ハ又更ラニ新規則ヲ設ケサルヲ得サルノ煩アラシ己ニ内閣委員モ第一讀會ニ於テ傳染病中虎列刺病ヲ以テ最モ畏ルヘキ者ナリト説明セリサレハ他ノ傳染病モ亦之ヲ以テ豫防スルノ主意ナラ

シ故ニ題號虎列刺ノ三字ヲ刪リ代フルニ傳染病ノ字ヲ以テセントス

○十一番 山口 尙勞 賛成

○議長 廿四番ノ修正說ハ賛成アルヲ以テ問題ト爲ス

○番二番 光田 廿四番ノ修正説ハ不是ナリ如何トナレハ傳染病ノ種  
外三郎 類ハ甚タ多キニヨリ修正ノ如クシハ瑣々タル流行病アルモ該規則  
ヲ施行セサルヲ得サルニ至リ上下其煩ヲ厭フヘシ故ニ本案ヲ以テ  
他ノ傳染病ニ適用スルハ不可ナリ  
○廿四番 細川 次郎 駁議亦其理ナキニアラス本官ノ所言豈敢テ僅々タ  
ル傳染病ニ及ホスノ意ナランヤ夫レ傳染病ノ種類ハ多數ナリ近來  
肺病ノ如キモ亦傳染スルノ説アリ故ニ修正ノ意ハ區域ヲ定メ條中  
「虎列刺ヲ初メ非常ニ人ヲ害スル病ヲ云フ」トノ註解ヲ下サントス豈  
敢テ之ヲ肺病脚氣等ニモ及ホスヘシト云ハンヤ  
○番一 小野 尙芳 番外二番ノ辯明ヲ以テ既ニ十分ニ修正説ヲ排スルニ  
足ルヘシト思ヒシニ豈圖ランヤ廿四番ハ猶未タ之ヲ了知セサルカ

○如ク前説ヲ主張セリ其説タルヤ良シヤ傳染病ト云フモ肺病脚氣ノ  
類ニハ及ホサスト云フト雖モ此ノ如クスルニ本按中大ニ修正ヲ  
加ヘサル可ラス且一概ニ傳染病ト云ヘハ未タ發明セサルノ惡症モ  
アルヘク又天然痘麻疹ノ類ニモ之ヲ施行セサルヲ得ヌ彼ノ麻疹  
如キハ外國ニ於テハ其善性ナルモノハ之ヲ防カサルノミナラス却  
テ故ヲニ他ニ感染セシムト云ヘリ然ルヲ專ラ傳染病ト云フト則ハ  
各港其他ニテ種類ヲ解セス漫ニ之ヲ推行スルノ患ヲ生スルモ知ル  
ヘカラス法ヲ爲スノ弊茲ニ至レハ廿四番ノ説ハ將來ニ於テ甚タ不  
都合ナラスヤ是レ内閣ニ於テ虎列刺ニノミ限ル所以ナリ  
○十一番 山口 番外一番ハ廿四番ノ説行レハ各港病種ヲ誤リ弊害想  
フヘシト云フト雖モ抑此規則ノ施行ハ何人カ之ヲ爲スヤ渾テ衛生





是レ區別ノ豫定シ難キヲ以テナリ故ニ魯西亞疫ナリ何病ナリ傳播

シ來ルルハ毎時ニ之カ規則ヲ設クルモ其煩雜ハ決シテ病種ヲ區分

スルカ如ク甚シカラサルヤ必セリ本官ハ之ヲ實際ニ徴シテ原按ヲ

可トス

○議長 廿四番ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ廿四番ノ修正説ハ消滅ス即本案ニ決ス

○書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

虎列刺病傳染豫防規則

第一條 虎列刺病及ヒ類似症ノ(以下單ニ虎列刺ト云フハ類似症ヲ

包含ス)傳染ヲ豫防センカタメ各開港場ニ檢疫局ヲ設置シ衛生局

ニ管轄ニ附ス而シテ其職務ノ實行ハ臨時衛生局ノ指示スル所ニ依ル

○廿三番 柳原前光 本條ノ主旨ニ異論ナシト雖モ只文字上ニ修正ヲ要ス

○類似症ノ下以下單ニ虎列刺ト云フハ云々下區畫セルモノハ割注本

爲シ又職務ノ實行ト云フキハ虛行アルカ如キヲ以テ實行ノ二字ヲ

除キ及ヒ臨時ノ二字允當ナラサルヲ以テ併セテ之ヲ除キ又檢疫局

云々ハ本條ニ掲ケスシテ可ナリ元來本條ハ翻譯ヨリ成リタルモノ

ト見ヘ往々布告文ノ体裁ヲ爲サハル所アリ本官ハ逐次ニ修正ヲ加

ヘント欲ス

○十二番 河野敏錄 賛成ト單ニ決斷スルハ云々ハ本論ニ以テ以テ

○議長 廿三番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○番二番<sup>光田</sup> 廿三番ノ修正説ハ本按ノ主旨ヲ害スルヲ以テ之ヲ辯  
 駁セサルヲ得ス以下單ニ虎列刺ト云フハ云々ハ本條ヲ以テ以下ノ  
 虎列刺トアル所ヲ指示シタルモノナレハ決シテ割注ト爲ス可ラス  
 何トナレハ之ヲ割注トスル兼ハ下ノ各條ニ於テ區畫セルモノハ皆  
 割注ニ改メサルヲ得サレハナリ又實行ハ現ニ其職務ヲ掌ルモノニ  
 必テ虛行ノ反對ニテ之ヲ臨時ハ外國ヨリ侵入スルハ衛生局ヨリ臨時  
 時ニ指示スルヲ仍テ修正ヲ不可トス  
 ○番四番<sup>河野</sup> 本案ハ翻譯文ノ体ニシテ規則ニ未タ見サルハ文體  
 敏録  
 ○サリ以下單ニ虎列刺ト云ハ云々ヲ如キ體書セルモノ第四條ニモア  
 リ甚タ其體裁ヲ爲サ、ルナリ且實行云々官員ノ職務ハ皆實行ニシ  
 テ更ニ不實行ナルモ又臨時法衛生局ノ指示スル所

○三依ルト云ハハ已ニ臨時ハ防疫又檢疫局編制云々ハ本案ニ掲ケ  
 スシテ可ナルモノナリ故ニ廿三番ノ修正ハ至當ナリトス  
 ○廿三番<sup>柳原</sup> 番外番ハ本官ノ修正説ニ向テ辯駁又與ヘ以下單ニ  
 前光  
 ○虎列刺云々ヲ割注ニセヨ第一條ノニ止ラスト云々ト雖モ現ニ本  
 案第四條ノ末項及ヒ第五條中ニモ既ニ割注ヲ挿入セルニアラスヤ  
 又實行ハ假令常務ニアラサルモ何レ職務ハ是レ實行ニアラサラン  
 ○ヤ臨時ノ字モ亦然リ必シモ實行臨時ノ字ヲ用フルヲ要セサルナリ  
 ○廿番<sup>佐野</sup> 本官ハ解セサル所アルヲ以テ茲ニ内閣委員ニ説明ヲ乞  
 常民  
 ントス本條檢疫局ハ平生設置シテ臨時ニ衛生局ヨリ指示スルト云  
 ○フノ主意ナリヤ  
 ○番二番<sup>小野</sup> 廿番ノ問ニ答フル前光ツ廿三番ニ向テ辯駁セント欲  
 外二番梓

○ス何ソヤ實行臨時ノ字ハ決シテ刪ルヘカヲサルナリ何トナレハ該條ハ檢疫局ノ職制ヲ頒布シ之ヲ施行スルハ臨時ニ衛生局ヨリ指示スルモノニシテ其職務ヲ實行スルコナルヲ以テ斯ク説明セハ廿番モ定メテ了解セルナラン

○廿番佐野 檢疫局ハ各開港場ニ平常設置シテ臨時ニ之カ指示ヲ爲ストナラハ此文ニテ可ナリト雖其檢疫局ハ臨時ニ設ルモノトセハ臨時ノ字ハ無用ナルカ如シ

○外番小野 廿番ノ説明ヲ求メシ所ノ主旨ハ今分明ニ了解セリ檢疫局設置ノコナルハ本條ヲ熟讀セハ明瞭ナラン臨時ニ設クト記セザル上ハ常ニ設ルコナルハ知ルヘキナリ

○廿三番柳原 番外一番ハ實行臨時ノ四字ヲ刪ルヘカラスト云フト

雖其官吏職制ハ即チ職務ナリ其職務タル一モ不實行ナルモノナシ然ラハ殊更ニ實行ノ字ヲ掲クルヲ要セス之ヲ除クモ不可ナキナリ

○外番小野 廿三番ハ職制ハ即チ職務ナリト云フ然ルニ職制ハ太政大臣ヨリ下附セラレシモノニテ衛生局ハ即チ其職務ヲ實行スルナリ職制ト職務トハ其實行ヲ混スヘカラスト故ニ之ヲ刪ルハ不可ナリ

○十二番河野 原來實行ノ字ハ甚タ奇怪ナル字ナリ斯ル奇怪ノ字ハ之ヲ掲テサルモ決シテ差支アルコナシ故ニ之ヲ刪ルヲ可トス若シ本會ニテ此修正ヲ廢セラルレハ尙ホ第三讀會ヲ待テ修正セントス

○外番小野 假令第三讀會ニ於テ修正スト云ハルハトモ實行等ノ字ヲ刪ルニ至ツテハ十分ニ拮抗スヘシ

○十一番<sup>山口</sup>至廿三番<sup>勞</sup>之修正説<sup>ア</sup>雖然ルニ其實行ノ字ノ有無ニ依リ  
 ○テハ實際ニ於テ太シキ差支ヲ生スルヲ思フニ此實行ハ職務ヲ舉行  
 タルコトヲ示シ然ラハ其時ニ舉行スルニハ人ヲ増スカ或ハ外國人  
 ヲ雇フモ職務ヲ舉ルコトアルニシ然ルヲ全ク之ヲ刪ルトキハ原接ノ  
 ○主意ヲ害ス故ニ原接ヲ可ナリトス尤モ割注ヲ論ニハ廿三番ニ異論  
 ナシ  
 ○議長討論ヲ盡キタルヲ認ム廿三番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ  
 ○起立者七人  
 ○議長<sup>少</sup>數ナルヲ以テ廿三番<sup>取</sup>修正説ハ消滅ス即チ本案ニ決ス夫  
 ○然<sup>書</sup>書記官<sup>戸田</sup>左ノ按ヲ朗讀ス要スルニ決ス  
 ○第二條 衛生局ハ虎列刺病ヲ侵入ヲ豫防セシカ爲ニ外國諸港ヲ衛

生官或ハ其他ノ官吏ト平常通信シテ該港衛生ノ景況ヲ豫知スヘ  
 シ<sup>出</sup>出<sup>入</sup>人員<sup>檢</sup>査<sup>所</sup>不<sup>備</sup>事<sup>起</sup>ル<sup>ハ</sup>燃<sup>込</sup>ハ<sup>備</sup>員<sup>ノ</sup>派<sup>出</sup>ニ<sup>依</sup>リ<sup>テ</sup>檢<sup>査</sup>  
 ○議長ハ發議ナキヲ以テ本按ヲ可ナスル者ハ起立セヨ  
 ○議長<sup>全</sup>員<sup>悉</sup>起<sup>立</sup>ニ<sup>依</sup>リ<sup>日</sup>出<sup>對</sup>一<sup>切</sup>之<sup>ヲ</sup>檢<sup>査</sup>ス  
 ○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス議ニ對シテ檢査ス  
 ○來<sup>書</sup>書記官<sup>戸田</sup>左ノ按ヲ朗讀ス  
 第三條 衛生局ニ於テ國內ニ虎列刺病侵入ヲ恐アリト看認スルキ  
 限達ヲ以テ此規則ヲ實施スヘキ港ヲ指示ス可シ  
 ○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可ナスル者ハ起立セヨ  
 ○議長<sup>全</sup>員<sup>悉</sup>起<sup>立</sup>ニ<sup>依</sup>リ<sup>日</sup>出<sup>對</sup>一<sup>切</sup>之<sup>ヲ</sup>檢<sup>査</sup>ス  
 ○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

第四條 衛生局ヨリ指示スル各港ノ港口ニ番所ヲ(海上或ハ陸地

ニ)設置シ該港ニ來ル船舶ノ停止場ヲ示ス可シ而シテ來港ノ船  
船ハ總テ其示ス所ノ境域内ニ停止シ下條ノ檢閲ヲ受ク可シ

但シ番所及ヒ停止場ノ目標等ハ追テ布告スヘシ  
來港ノ船舶右ノ場所ニ停止シタルキハ檢疫局ハ貳名以上ノ吏員

(其一名ハ醫員タルヘシ)ヲ派遣シ其船ヲ檢査ス船舶停止後六時  
間(日没前一時ヨリ日出後一時迄)ヲ算入セス)ヲ經テ檢査セサル

時ハ該船舶ハ直ニ入港スルヲ得  
但疾風暴雨等不得止事故アル歟或ハ船員ノ所爲ニヨリテ檢査

トノ遅延ヲ來スハ此限ニ在ラス

前段ノ如ク檢査ヲ受スシテ入港スル船舶ハ入港後更ニ檢査ヲ受

ケザル可ラス

凡ソ船舶檢査ヲ受ケサル間都テ船外ノ人檢疫吏物郵便物ヲ除ク第十條ニ依ル

交通スルヲ許サス

廿三番柳原前光 本條モ割注ト爲シテ可ナルモノアリト雖モ第一條ニ

於テ本官ノ修正説ハ消滅セルヲ以テ之ヲ措キ修正スヘキモノヲ述

ヘシ先ツ檢閲ノ閱ヲ查ト改メ但シ「シ」ノ字他ノ文例ト一體セサル

ヲ以テ之ヲ刪ルヘシ且本條ハ數項連續シ甚タ長文ナレハ煩雜ヲ覺

フ之ヲ數條ニ分ツヘシ來港ノ船舶云々ノ一項ヲ第五條ト爲シ而シテ

「右」ノ字ヲ前條ト改メ船舶停止後云々ノ一項ヲ第六條ト爲シ前段ノ

如ク云々ノ一項ヲ第七條ト爲シ而シテ前段ノ段ヲ條ト改メ凡ソ船

船検査云々ノ一項ヲ第八條ニ爲シ而シテ檢疫吏云々割注ノ下ニ及

ビノ二字ト物ノ下ニ品ノ一字トヲ加ヘ末文ノ交通ヲ接ノ一字ニ改

メシトス

○廿四番 細川潤 賛成 且津船内渡部監事等ニ對シテ其ノ意見ニ對シテ

○十四番 中島開 賛成 査察部ニ對シテ其ノ意見ニ對シテ

○十一番 山口 尙勞 廿三番ノ修正ヲ欲スル所以ヲ今一應陳述アリタシ

○廿三番 柳原 前光 本官ノ修正ハ前陳ノ如ク條ヲ分ツト文字ヲ修正スル

ノ二ツニ過キス

○外二番 光田 三郎 廿三番ノ修正説ニ本條ハ甚久長文ナルヲ以テ之ヲ分

ツト云フト雖モ本條ハ凡テ船舶入津スルルノ手續ヲ纏メタルモノ

ニシテ若シ之ヲ分テハ到底獨立ノ精神ナキカ故ニ他ノ各條ト併立

スル可難カルヘシ

○十二番 河野 敏雄 日本官ハ廿三番ノ修正説ヲ賛成ス本條ハ甚々錯雜シテ

一章ニ主義アルモノヲ混スルモノアリ從來日本ノ法律ハ此ノ如キ

モノハ之ヲ分ツ例ナク蓋シ之ヲ分テハ讀易キ故ナリ總テ法律ハ

唐宋八家文ノ如ク句讀段落ヲ論スルヲ要セス解シ易キヲ主トス本

條ノ主義ハ第二ハ船舶ノ停止場ヲ示スコヲ云ヒ第二ハ檢疫局ノ吏

員其船ヲ検査スルコヲ云ヒ第三ハ船舶停止後ノ時間ノコヲ云ヒ第

四ハ検査ヲ受テスシテ入港スル船舶ノコヲ云ヒ第五ハ人ト物トノ

取扱ヒヲ云フモノニシテ之ヲ分テハ犯則ノモノアルル律ヲ擬スル

ニモ便利ナリ是レ本官ノ修正説ヲ賛成スル所以ナリ

○外二番 光田 三郎 十二番ハ一主義アルモノハ條ヲ分ツヘシト云フト雖

○モ本條一條ヲ以テ聯絡シ一主義アルヲ以テ別項ト爲セシオリ故  
之ヲ分ツハ不可ナリ

○議長 廿三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ  
起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ廿三番ノ修正ニ決シ即チ原按第五條ヲ第九  
條ト爲シ以下之ニ準スヘシ

書記官 戸田 秋成

第九條 着船ノ船員船長 醫員 士官等ハ勉テ檢疫吏ノ事務ヲ施行スルノ便  
一宜ヲ得セシムヘシ

○十其船舶ノ日記、船員船客人名簿、醫員報告、物貨品目簿等ヲ示シ其  
諸簿ト關涉スル所ノ人及ヒ物品ヲ照査スル等都テ檢疫吏ノ請求

○應スヘシ

○十二番 河野 敏謙 本條文字上ニ於テ聊カ修正セントス即チ其修正ハ着

船員船長 醫員 士官等其船舶ノ日記、船員船客人名簿、醫員報告、物貨品

目簿等ヲ示シ其諸簿ト關涉スル所ノ人及ヒ物品ヲ照査スル等都テ

檢疫吏ノ請求ニ應シ勉テ檢疫吏ノ事務ヲ施行スルノ便宜ヲ得セシ

ムヘシト爲サント欲スルナリ

○廿三番 柳原 前光 賛成

○議長 十二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 小野 梓 十二番ノ修正説ハ内閣委員モ亦異議ナシ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ十二番ノ修正ヲ可トスルモハ起立セ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ十二番ノ修正ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第十條 此規則ヲ施行スルタメ入港ノ船舶ヲ分ツテ左ノ種類トス

○第一種 無病港ヨリ來着シ航海中曾テ疑シキ船舶ニ接シタル

ナク且ツ船内更ニ虎列刺病患者ナキ者

○第二種 船内更ニ虎列刺ニ感染セシモノナシト雖モ有病ノ港ヨ

リ來ルモノ若シクハ疑シキ船ニ接シタル者

○第三種 到着ノ現時或ハ其後ニ於テ感染セシ者ナキモ船中曾テ

○虎列刺患者アリシ者

○第四種 船内現ニ虎列刺ニ感染セシモノアル者

第三第四ニ屬スル船舶ハ其出發シタル港ノ有病無病ヲ審問ス

ルヲ要セス

○廿三番 柳原前光 本條第二三四種ノ三項中虎列刺トノミアリテ病ノ字

ヲ缺クヲ以テ一列之ヲ加ヘ且第四種ノ末文第二第四ヲ第三第四

種ト爲サント欲ス

○廿四番 細川潤次郎 賛成

○議長 廿三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ廿三番ノ修正説ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ廿三番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス



第十二條 前條ノ種類ニ隨テ船舶ヲ取扱フ方法左ノ如シ

○第一種 此種ニ屬スル船舶ハ一定ノ場所ニ停止シ檢疫吏ノ認可ヲ得港外ニ投錨セス直ニ入港スルヲ得

○第二種 此ノ種ニ屬スル船舶ハ一定ノ場所ニ停止シ檢疫吏ノ検査ヲ受テ船内衛生法ノ充分ナルヲ證明シテ後入港スルヲ得

○第三種 但時宜ニ由リ其豫防法ヲ行フト行ハサルト並ニ其法ヲ寬ニスルト嚴ニスルトハ都テ檢疫吏ノ指示ニ依ルヘシ

第三種 此種ニ屬スル船舶ハ檢疫吏ノ指示スル場所ニ投錨シ該吏ノ指示スル豫防法ヲ施行スルヲ後入港スルヲ得

但其豫防法ハ患者ノ多寡病症ノ輕重發病後時日ノ長短及ヒ既ニ船中ニ施行シタル消毒法ノ如何ニ由テ斟酌スヘシ

第四種 此種ニ屬スル船舶ハ檢疫吏ノ指示スル場所ニ投錨シ船

ノ進退並ニ患者及ヒ死者ノ處分等左ノ法ニ準據スヘシ

〔イ〕死骸ハ海港檢疫吏ノ指示スル方法及ヒ場所ニ於テ適當ノ消毒法ヲ行ヒ然シテ後之ヲ埋葬スヘシ

〔ロ〕虎列刺患者ハ特ニ設ケタル病院ニ移轉スヘシ

〔ハ〕檢疫醫員ニ於テ虎列刺病ノ前兆ヲ有スルト疑フ者ハ速ニ類似症患者ノ爲メニ設ケル病舎或ハ他ノ病院ニ送致スヘシ

〔ニ〕檢疫醫員ニ於テ虎列刺ニ罹ル患者ノ容體危篤ニシテ他所ニ移轉シ難シト認ムルモノハ之ヲ船中ニ留メ置クヘシ且該船

ノ進退豫防ノ方法ハ檢疫吏ノ指揮ニ依ル可シ

健全証書ヲ得ルニアラサレハ他ニ發程スルヲ得ス

(ハ)患者自ラ信任スル所ノ醫員ノ來診ヲ請求スルヲ得而テ醫員ニ非ラサル人ニシテ患者ニ接見セントスル者ハ檢疫醫ノ許可ヲ受ケテ該醫ノ指示スル豫防法其他條規ヲ遵守セサル可ラス

(ト)患者ハ病院ノ費用則チ食料、看護料、診察料、藥料、及ヒ雜費等檢疫吏ノ定ムル所ニ隨テ自辨ス可シ

(チ)船中人員(虎列刺病ニ感染セサルモノ)上陸スルキ或ハ陸上ノ人ト交接スルキ預メ消毒法ヲ行フ可シ

(リ)船員船客ニ屬スル衣服寢具雜具ニ消毒法ヲ施行ス可シ

患者ニ屬スル前記ノ物品ハ檢疫吏ノ見込ニヨリ之ヲ燒棄セシムルコトアルヘシ

(ヌ)船中搭載スル物品其質傳染ノ媒介タル恐アル者(襦袢或ハ古着類ノ如シ)或ハ其染毒品ト相觸タル者ハ檢疫吏時宜ニヨリ消毒法ヲ命シ或ハ之ヲ燒棄セシムルコトアルヘシ

(ル)入港前檢疫吏ノ指示ニ依リ船中總員及ヒ船中各部ニ向テ更ニ消毒法ヲ施行スヘシ

○廿三番柳原前光 本官ハ屢修正說ヲ呈出スルニ似タリト雖本條モ亦爰ニ修正ヲ要セサルヲ得ス本條第四種中項ヲ分ツミ、イロハノ標目ヲ以テス是レ從來本邦ノ法律文例ニアラサルニ由リ次ヲ逐テ之ヲ

一。二。三。ノ數字ニ改メ且、ホ頂ノ下「ロハ」ニ「三字ヲ第二第三第四ノ六字ニ改メ」ト欲ス

○一番東久世通神 贊成

○議長 廿三番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 廿三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ廿三番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 左ノ按ヲ朗讀ス

第十二條 消毒法ノ施行ハ検査ヲ後遅クトモ二十四時間ニ完了ス

但シ疾風暴雨等非常不得已ノ際ハ此限ニテラヌ且消毒法ヲ施行スルニ於テ適當ニ支消シタル現費ハ該船ニテ負擔スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致アルヲ以テ本按ヲ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 左ノ按ヲ朗讀ス

第十三條 軍艦ヲ第七條ノ種類ニ區別スルハ艦長及ヒ醫官ノ陳述ニ準據ス

檢疫吏ノ請求アル所ハ其陳述スル所ヲ筆記署名シ之ヲ付與ス

第一種第二種ニ屬スル軍艦ハ艦長病毒滋蔓ヲ防遏スル充分ノ豫備ヲナスヘク承諾スル所ハ港外ニ投錨セスシテ直ニ入港スルヲ

得

第三種第四種ニ屬スル軍艦ノ停止スル所ハ檢疫吏ノ指示ニ依ル

ヘシト雖モ其施行スヘキ消毒豫防ノ方法ハ總テ檢疫吏該艦ノ醫

員ト協議決定スヘシ尤檢疫吏ハ其決定セル方法ヲ實施シタルヤ  
否ヲ更ニ檢査スルヲ得

但シ此消毒豫防法ヲ行フノ以前該艦モシ他ノ船舶ニ直接ノ交

通ヲ要スルハ先ツ衛生官ヲ満足セシムヘキ豫防法ヲ施シ然

ル後交通スヘシ

○十四番中島 信行 本條聊カ修正ヲ爲サントス其修正ハ軍艦ヲ第七條云

ヤトアレ氏第四條ノ修正ニテ已ニ分條セルヲ以テ「七」ヲ「十」ニ作ルニ  
在ルナリ

○廿三番柳原 前光 賛成

○議長 十四番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 十四番ノ修正ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ十四番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第十四條 郵便物ハ臨時適宜ノ方法ヲ以テ疾速ニ陸揚スルヲ得セ

○廿四番細川 潤 次郎 本條ハ頗ル修正ヲ加ヘサルヲ得ス夫レ郵便物ノ如

キハ縦ヒ疾速ヲ要スト雖モ亦必ス消毒法ヲ施サ、ルヘカラス然ル

ニ只臨時適宜ノ方法ト記スルハ或ハ消毒法ヲ施サ、ルトアルヘ

シ果シテ然レハ是レ豫防法ノ大主意ニ戻ルナリ仍テ郵便物ハ「下

臨時」ノ字ヲ除キ方法ヲ以テ「下」臨時消毒法ヲ施行シ「九」字ヲ加

ヘント欲ス